

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		高良倉成	所 属	教育学部 学校教育教員養成過程	職 名	教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果	
教育	0.60	社会科教育専修の科目(経済学概論や国際経済論など)、沖縄島嶼教育コースの科目(経済時事問題演習や島嶼社会調査など)、および学部全体に向けた科目(社会科要説)について、内容や教材をさらに工夫しながら担当する。		0.60	ほぼ当初目標の教育をこなしたが、国際経済論については学生側の理解度が例年よりかなり低下している。一時的な現象なのか、それとも授業内容等の組み立てを改訂すべきなのか、今後見極める必要があるようだ。	
研究	0.40	雑誌「教育時論」からの語彙抽出を年度前半に終え、年度後半からは同誌における「社会」用語法を具体的に検証する。		0.40	論文「<社会>の語の使われ方」を『社会学評論』(社会学会)に投稿し受理された。	
社会貢献	0.00	その都度、必要に応じて対応するが、とくに目標は設定しない。		0.00	とくに社会貢献することなく1年が過ぎた。	
管理運営	0.00	その都度、必要に応じて対応するが、とくに目標は設定しない。		0.00	とくに管理運営には携わることなく1年が過ぎた。	
進路指導	0.00	その都度、必要に応じて対応するが、とくに目標は設定しない。		0.00	とくに当方の進路指導の成果というわけではないが、ゼミ生の一人の就職が内定した。	
	0.00			0.00		
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		田中 洋	所 属	教育学部 学校教育教員養成課程	職 名	准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果	
教育	0.45	学生の理解を促進するため、それぞれの授業規模に応じた柔軟な方法で、学生とのコミュニケーションがより図れるような授業を行う。共通教育科目の「憲法概論」は、大人数であるため、講義中心にならざるを得ないが、その中でも、より個別の対応を工夫する。		0.45	共通教育科目の「憲法概論」では、複数回簡単なレポートを課したり、20人程度の授業では、参考文献についてのブックレポートを課すなど、それぞれの授業規模に応じて、学生の積極的な学習への取組を促すような方法を試みた。	
研究	0.30	学校教育現場で現在生じている問題に対して、法的視点からの分析を行い、教育関係学会での発表及び学会誌等への投稿を行う。		0.30	学校現場で生じた裁判例の分析等の論考を発表した他、九州法学会や教育制度学会で報告を行った。	
社会貢献	0.05	教員免許更新講習の講師として、学校現場で求められるニーズに即した講義を行うように努める。		0.05	教員免許状更新講習で必修領域の一部を担当し、可能なかぎり具体的な内容となるように講義を行った。	
管理運営	0.10	教育実習委員として、実習等が円滑に実施されるように配慮する。特に介護等体験部会長として、学務担当職員と協力して、社会福祉施設及び特別支援学校での体験実習が順調に行われるように努める。		0.10	教育実習委員会では、特に介護等体験部会長として、学務担当職員の方と連携を図り、社会福祉施設及び特別支援学校における体験実習の円滑な実施に努めた。	
進路指導	0.10	1年次指導教員として、今後の大学生活が順調に送れるように、適宜、援助する。		0.10	1年次指導教員として、各学期の懇談会や1, 3研修の他、介護等体験指導や教職体験 I での指導の機会も利用して、各学生の状況把握や援助に努めた。	
	0.00			0.00		
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		前村 佳幸	所 属		教育学部 学校教育教員養成過程	職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果		
教育	0.25	小学校9教科の社会科関連科目を担当。体験学習を取り込み内容の充実をはかる。専修の共同授業に加わる。専門科目では歴史学独自の視座や事物紹介に努める。			0.25	構想していた内容を概ね展開させることができた。		
研究	0.35	学術研究助成基金助成金(基盤研究C:平成25年度～平成27年度)による研究課題「球陽外巻『遺老説伝』の総合的研究」を推進する。近世琉球史に関する論考をまとめる。			0.35	教育学部紀要第84集に論文掲載。地方学会誌に論文1本掲載。典籍の解体調査により試料を分析した。近世琉球史関連の論文の投稿準備がほぼ完了。		
社会 貢献	0.25	ひきつづき、紙漉きを教育活動のテーマとして他分野の教員との協働により、学校や地域との連携を深める。			0.25	「沖縄県の子どもの学びと育ちを支えるプロジェクト」として推進。その共同の成果を日本教育情報学会での報告や教育実践総合センター紀要21号の論文としてまとめた。		
管理 運営	0.05	学生生活委員会(社会科教育専修・沖縄島嶼教育コース兼任)にて実務にあたる。			0.05	教員採用試験対策セミナー講師や認定試験の運営に関わった。		
進路 指導	0.10	2年次指導教員として、履修・学生生活指導、行事にあたる。			0.10	全員が各自の撰修に基づき3年次に向けて学業を進めている。		
	0.00				0.00			
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 			1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		花木宏直	所 属		教育学部 学校教育教員養成過程	職 名		講師
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果		
教育	0.30	人文地理学概論や地誌学概論の授業を通じて、小学校社会や中学校社会科地理の教員を養成する上で、最低限必要な地理学的なもののみかたと、琉球列島に関する基礎的な地理的知識を徹底して教授する。			0.30	人文地理学概論や地誌学概論を通じて、現代沖縄に生起する事象に関連づけながら、小中学校の社会科における地理的分野の授業に活用しうる題材の提供を行った。		
研究	0.30	近代期の沖縄県における海外移民送出地域の成立と展開を、日本本土出身の移民会社業務代理人への注目といった新機軸を導入して検討する歴史地理学研究に新たに着手するとともに、平成26年度科研費(若手研究)の採択を目指す。			0.30	琉球大学若手研究助成を活用し、明治期の沖縄県および周辺地域における海外移民送出地域の成立過程を検討した。研究成果は「沖縄地理」や教育学部紀要に寄稿し、さらに平成26年度の「移民研究」への投稿を目指して現在検討を継続している。		
社会 貢献	0.20	自身の前任地における研究の1つである、近代期の瀬戸内島嶼における海外移民の送出に関する研究成果について、本年度中に学生や一般向けの書籍に寄稿する予定となっている。平成26年3月の刊行予定日に向け確実に作業を進め、研究成果を広く一般に公開することへとつなげる。			0.20	平成26年度刊行予定の地理学の一般や学生向け書物である『離島研究V』や『図説 日本の島』と、公共図書館向けの辞典『日本生活史辞典』について、執筆の依頼を受け、寄稿を終えた。予定通り刊行されれば、研究成果の一般への公開に寄与することとなる。		
管理 運営	0.10	教室の維持に積極的に関与する。			0.10	教室の維持に積極的に関与した。		
進路 指導	0.10	本年度は担任を務めていないが、授業の受講者やゼミの参加者等に対し、授業の履修計画や、就職や進学に向けた取り組みをめぐり、適切に助言し、進路にあわせた指導を行う。			0.10	ゼミに参加している3年次生に対し、卒業研究にとどまらず、就職に関する相談及び助言を行った。		
	0.00				0.00			
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 			1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)							
名 前		松本 修一		所 属	教育学部 学校教育教員養成過程	職 名	教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果		
教育	0.30	共通教育と専門教育に関する講義の他に、大学院生4名の指導を通して責務を果たす		0.30	初めて共通教育の「微分積分学入門」を担当し、数学に対する学生の経験と理念の貧しさに愕然とした。用意した教材は十分には適当でなかった。私自身学ぶところ多く、来年度に反映させる予定。学部卒研究生と、上海日本人学校での経験を積んだ院生とは、非常に大きな成長を示してくれた。		
研究	0.10	Larmor 時計と固有時に関する研究を継続する		0.10	ほとんど全ての時間を「教育」と「社会貢献」に割いた為、目標に定めた研究にはほとんど進展がなかった。ただ、共同研究者の研究に大きな進展があり、その結果を、自身のこれまで得た見識と突き合わせるにより、今後の研究方針をかなり明確に認識できるようになった。来年度に生かす。		
社会 貢献	0.50	誰でもが自由に Web 上で利用できる算数及び数学の自学自習支援システムの構築を完成させる		0.50	数学教育における教育目標とは何か？この疑問に苦しめられた一年だった。微分や積分の計算ができる、と言うこと以上の何かがなければ、人間精神の奥深くに根差したものとしての数学を、多くの人に伝えることはできない。4月からホームページ上で、私見と共に順次教材を公開する。		
管理 運営	0.05	教育実習委員の責務を果たす		0.05	「教職体験 I」担当部会長としての形式的責務については、概ね果たしたと考える。ただ、大学生に対する私の教育目標は「自律性の養成」であり、教育実習を通してそういった機会を十分学生に提供し得たかと言うと、疑問符が付く。		
進路 指導	0.05	年次指導教官の仕事を通して、学生の進路指導に当たる		0.05	北海道教育大学との交換学生制度を利用して二人が釧路へ遊学した。何人が、たどたどしくではあるが、専門の数学書を読みだした。恋に悩み、あるいは謳歌している者もいる。皆が有意義な学生生活を送っているようである。適当な刺激を与えることにおいて、おおむね成功したと考える。		
	0.00			0.00			
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)						
名 前		徳重 典英	所 属	教育学部 学校教育教員養成過程	職 名	教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果	
教育	0.40	「微分積分学I」「微分積分学II」「数学講読」「代数学I」「代数学II」「幾何学II」「離散数学特論」「卒業研究」の授業、指導を行う。		0.40	「微分積分学I」「微分積分学II」「数学講読」「代数学I」「代数学II」「幾何学II」「離散数学特論」「卒業研究」の授業、指導を行った。	
研究	0.25	科研費基盤研究(B)25287031の研究代表者としての活動を行う。		0.25	科研費基盤研究(B)25287031の研究代表者としての活動を行った。関連する学会発表(4件)を行い、4本の論文が出版された。	
社会貢献	0.05	応用数学合同研究集会の運営を手伝う。学術論文の査読を行う。		0.05	応用数学合同研究集会の運営を行った。学術論文の査読(6件)を行った。	
管理運営	0.25	入試委員として、関連の業務を行う。守秘義務のある委員として、関連の業務を行う。		0.25	入試委員として、関連の業務を行った。守秘義務のある委員(2件)として、関連の業務を行った。	
進路指導	0.05	オープンキャンパス、卒業生の進路調査等を通して、進路指導、進路に関する広報、情報収集等を行う。		0.05	オープンキャンパス、卒業生の進路調査等を通して、進路指導、進路に関する広報、情報収集等を行った。	
	0.00			0.00		
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		加藤 満生	所 属	教育学部 学校教育教員養成過程	職 名	教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果	
教育	0.25	共通教育, 専門教育, 大学院教育において学生の理解度に合わせた講義演習を行う。		0.25	共通教育, 専門教育, 大学院教育において学生の理解度に合わせた講義演習を行った。	
研究	0.25	自由因子を特異点とする複素微分方程式の研究を行う。		0.25	自由因子を特異点とする複素微分方程式微分方程式に関する論文(共著)をkyushu Journal of Math. (査読有)から1編出版した。	
社会貢献	0.25	平成22年度免許状更新講習を担当し, 公立学校の教員との交流を密にする。		0.25	平成22年度免許状更新講習を担当し, 公立学校の教員との交流を密にした。	
管理運営	0.25	数学専修の教育委員及び情報教育コースの世話役として管理運営に携わる。		0.25	数学専修の教育委員及び情報教育コースの世話役として管理運営に携わった。	
進路指導	0.00			0.00		
	0.00			0.00		
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう, 記入してください。 ・記入量に応じて, 枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は, 「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう, 記入してください。 	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には, 右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		山城 康一	所 属		教育学部 学校教育教員養成過程	職 名		
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果		
教育	0.20	専門科目:代数学 共通教育科目:統計学 院:特論の興味深い授業 学部ゼミ4年生1人、院生2人のそれぞれの分野への意欲の持続 webclassの利用			0.30	専門、共通の授業においてwebclassを利用し、授業ノートの配布、授業内容に関する質問への回答、アンケートの実施を行った。専門の授業では、ルービクキューブ等の教具の使用を試みた。教職実践演習をコーディネートし、外部講師による講義、学生との懇談を行った。またコックさん学校の活動でもwebclassを利用し、学生のリフレクションを促した。		
研究	0.40	部分環の列に関する研究の継続 平田分離拡大環の諸結果の強分離拡大環への拡張 ある種の圏論的システムの構築			0.20	コックさん学校の活動をまとめ、以下のように報告した 論文:萩野敦子共著 教育実践力を育む模擬学校「コックさん学校」 -6年目の成果と課題及びITの活用- 琉球大学教育学部紀要 第83集 発表:地域連携事業部門報告会 コックさん学校 2013		
社会 貢献	0.10	九州数学教育研究大会における指導助言 沖縄県数学教育会大学部会事務局			0.10	沖縄県数学教育会大学部会事務局長 第67回九州数学教育大会高等学校部会において、指導助言 沖縄県数学教育会 第36回小中高合同研究会コーディネーター		
管理 運営	0.20	コックさん学校			0.30	「沖縄県の子どもの学びと育ちを支えるプロジェクト」として模擬学校「コックさん学校」の活動を行った。		
進路 指導	0.10	4年次指導教官			0.10	4年次指導教官として学生の指導に当たった。		
	0.00				0.00			
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。			1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		湯澤 秀文	所 属	教育学部 学校教育教員養成過程	職 名	講師
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果	
教育	0.45	講義に関する学生の質問や感想を随時取り入れ、これを授業の改善等を通じてフィードバックして行く。また、近年の研究成果や情報も適宜取り入れ、講義の質の向上に努める。		0.40	ほぼ毎回の講義において、学生からの質問や感想を主に記述を通して聞くことができ、結果をそれ以降の講義の改善に役立てることができた。また、近年の研究の動向等も適宜紹介した。その結果、これらに関する学生の記述は、概ね講義の趣旨に沿うものが多かった。	
研究	0.40	研究テーマに関する資料・情報の収集、教材開発、授業研究、授業実践、学会参加等を通じて、算数・数学科教育及び教師教育に関する研究と実践を進める。		0.35	研究テーマに関する資料や情報を収集し、実践や考察を深めることができた。	
社会 貢献	0.05	学会や附属学校、公立学校の研究大会や研修などにおける指導・助言等の要請に可能な限り応え、大会の運営に協力する。		0.15	附属小・中両校における研究大会や校内研修、教育実習等での指導・助言のほか、公立学校や各種研究団体、県の教育センターからの研究会・研修会・講座等についても可能な限り依頼を受け入れ、指導・助言、講演などを行った。	
管理 運営	0.05	所属委員会の活動に取り組む。		0.05	所属委員会より依頼された業務に関しては責務を果たすことができた。	
進路 指導	0.05	ゼミや指導年次の学生の進路相談、修学相談等を随時行う。		0.05	採用試験の指導や進路相談を随時行った。	
	0.00			0.00		
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		杉尾 幸司	所 属	教育学部 学校教育教員養成過程	職 名	教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果	
教育	0.30	学部および大学院の担当科目の授業内容について検討し、改善を実施する。また、教免法の改訂にともなって実施が義務付けられた教職実践演習およびその前提科目である教職実践研究を実施し、外部機関とも連携して効果的な内容になるように努力する。		0.30	学部担当科目および大学院担当科目ともに、前年度の学生による評価結果等を参考に改善を行った。また、教職実践研究・演習を初めて実施し、学生の教育実践力向上に寄与する取り組みを行った。	
研究	0.30	新たな研究を進めるとともに、これまでの研究内容についてまとめ、学会等での発表や研究論文等の投稿に努める。また、科学研究費補助金等の外部資金の獲得を積極的に行う。		0.30	外部資金獲得に関しては、今年度新たに「科学研究費補助金(基盤研究C:研究代表)」を獲得した。これまでの研究成果は、学会において発表するとともに、論文投稿を行い、国際学術誌及び学部紀要に掲載された。	
社会貢献	0.15	附属学校等での研究授業および授業討論会等に参加し、助言を行う。また、小中高の教育現場と連携した取り組み等の対外的な協力についても積極的に行う。		0.15	附属小学校および中学校で行われた研究授業に参加して助言等を行った。また、沖縄県教育委員会より、スーパーサイエンスハイスクール運営指導委員の委嘱を受け、球陽高校の運営に対し指導・助言を行った。	
管理運営	0.20	理科教育専修の主任として、各管理運営に関する事項についての責任を果たす。また、4年次指導教員として学生への適切な指導助言を行う。		0.20	理科教育専修及び理科教育講座の主任として、各管理運営に関する事項についての責任を果たした。また、4年次指導教員として、履修カルテ等の実施について取り組むとともに、年次別懇談会等を通して学生への指導に努めた。	
進路指導	0.05	年次指導として担当している4年次や研究室に所属する学生を中心に、進路に関しての適切な指導助言を行う。		0.05	研究室所属学生3名のうち、2名が沖縄県教員選考試験(小学校1名、中学校理科1名)に最終合格することができ、就職指導に関して一定の成果を得ることができた。	
	0.00			0.00		
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		松田 伸也	所 属	教育学部 学校教育教員養成過程	職 名	教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果	
教育	0.42	前期:理科教育法D、自然科学概論、理科教育実践研究B1、理科教育特論B2の講義を行い、理科教育研究の4回を2クラス分担して行う。後期:理科教育法C、理科教育実践研究B2の講義を行い、入門地学6回を1クラス、理科教育研究の4回を2クラス分担して行う。		0.40	前期:理科教育法D、自然科学概論、理科教育実践研究B1、理科教育特論B2の講義を行い、理科教育研究を2クラス各4回(計8回)を分担して行った。後期:理科教育法C、理科教育実践研究B2の講義を行い、入門地学6回を1クラス、理科教育研究を2クラス各4回を分担して行った。	
研究	0.43	火成岩に関する教材開発の基礎的研究を進める。また、第四系石灰岩の教材化のための基礎的研究として、堆積物生産者(石灰藻類など)の研究を進める。		0.50	火成岩の教材化の研究を進め、理科教育学会九州支部大会において、安山岩の1種で制作した教具(磨製石斧)について、1件の研究発表を行った(3人共同の筆頭)。化石サンゴモの研究を進め、無節サンゴモの英文総説単行本(Springer, Coastal Research Libraryの1冊:全19章)のうちの1章(約6ページ程度)を4人共著の第三著者として執筆し入稿した(現在編集者により査読中)。	
社会貢献	0.01	日本理科教育学会九州支部評議員を務める		0.01	日本理科教育学会九州支部評議員を務めた。	
管理運営	0.09	教育学部共同研究推進委員、教育学部附属教育実践総合センター運営委員を務める		0.04	教育学部共同研究推進委員、教育学部附属教育実践総合センター運営委員を務めた。	
進路指導	0.05	教育学部の認定試験の問題作成に分担者として参加する。沖縄県教員候補者選考試験対策セミナープログラムの講師を務める。		0.05	教育学部の認定試験の問題作成に分担者として参加した。沖縄県教員候補者選考試験対策セミナープログラムの講師(一般教養:理科)を務めた。	
	0.00			0.00		
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		柄木 良友		所 属		教育学部 学校教育教員養成課程		職 名		教授	
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定				業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果				
教育	0.50	担当授業を行い、授業の改善を行う。				0.70	担当授業を行い、授業の改善を行った。				
研究	0.30	東京大学物性研究所嘱託研究員として実験装置の維持管理、院生指導、研究を行う				0.10	東京大学物性研究所嘱託研究員として実験装置の維持管理、院生指導、研究を行った。				
社会貢献	0.10	付属中学での授業をおこなう。免許法認定講習の講師を担当する。				0.10	付属中学での授業をおこなった。(体験琉球大学)				
管理運営	0.10	学生生活委員としての活動を行う、極低温センター運営委員、3年次指導教官として活動をおこなう。				0.10	学生生活委員としての活動を行なった。極低温センター運営委員、極低温センター保安係員代理者としての職務を行った。3年次指導教官として活動をおこなった				
進路指導	0.00					0.00					
	0.00					0.00					
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 				1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 				
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。						<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)											
名 前		岩切 宏友		所 属		教育学部・理科教育専修		職 名		准教授	
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定				業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果				
教育	0.50	<ul style="list-style-type: none"> ○物理学実験の講義を通して、基礎的な物理の実験手法の確立や、コンピュータの活用方法、論理的な文章の書き方などを指導する。 ○卒業研究および修士論文の指導により、自発的研究能力や科学的思考能力の育成を行う。 ○教育学部における物理教育法を高度化し、その手法を確立して講義に生かす。 				0.45	物理学実験用の教材の改良を行い、学生の理解度も深まったように思える。講義の内容は本年度履修学生に応じて昨年度から25%程度変化させた。また3人の学部学生と1名の修士課程の学生に対する研究指導および物理教育を行い、プレゼンテーション技術や文章作成、科学的思考力の育成に成果があった。				
研究	0.35	<ul style="list-style-type: none"> ○核融合炉研究に関連した計算材料科学についての研究を進展させ、学術論文として発表する(この研究は外部資金の獲得と関連する)。 ○トランスサイエンス問題とエネルギー環境教育に関する研究を進展させる。 ○量子ビーム照射効果についての諸研究を進展させ、学術論文として発表する。 				0.42	固体中における水素とヘリウムの挙動に関する計算機シミュレーションについては著しい成果があがり、プラズマ・核融合学会で発表した「低放射化フェライト鋼における主要析出物中の水素の挙動 ～第一原理計算によるアプローチ～」は若手学会発表賞を受賞した(代表者は渡辺淑之)。また、照射効果に関する実験的成果については1件の論文を国際学会誌に投稿し、発行された。エネルギー環境教育については、現在までの研究成果をエネルギー環境教育学会で発表した。				
社会 貢献	0.05	<ul style="list-style-type: none"> ○ITER-BA(国際熱核融合実験計画を補完・支援する先進的核融合研究開発事業)の遂行を他大学(京都大学、島根大学、北海道大学など)の研究者と連携して行う。 ○共同研究を行っている京都大学大学院の数名の大学院生に対する研究指導の補助を行う。 ○要請があれば、物理学に関する講演・出前授業などを行う。 				0.05	ITER-BAについては1つのタスクの研究代表者となり産学連携助成金を受け、将来の核融合炉中における水素同位体蓄積挙動についての議論・研究を進めた。また、3つのタスクには分担者として加わり、研究助言などの役割を果たした。共同研究を行っている京都大学大学院の学生指導については本年度は十分には行えなかった(その必要がなかった)。				
管理 運営	0.08	<ul style="list-style-type: none"> ○理科教育専修2年次の指導教員および、教育実習委員としての業務を円滑に行う。 ○機器分析支援センター運営委員会委員及びRI施設放射線安全委員会委員としての業務を円滑に行う。 				0.08	理科教育専修2年次の指導教員としての業務は円滑に行うことができた。教育実習委員・教職体験部会副部長としての業務については可能な限り努力した。理科教育専修・理科教育講座における諸業務も円滑に行えた。また、機器分析支援センター運営委員会委員としての仕事も行った。				
進路 指導	0.02	<ul style="list-style-type: none"> ○教育学部理科教育専修2年次の学生に対し、将来の進路に関する相談、助言などを行う。 ○教員採用試験に関する物理分野の受験指導を行う。 				0.00	研究室に所属している3名の学部学生および1名の大学院生に対して、要望に応じた進路指導を行った。また、教育学部理科教育専修2年次の学生からは特に進路指導に対する相談は受けなかった。また、教員採用試験に関する物理分野の受験指導も行った。ただし、すべての業務内容を合わせても、それほど時間を要していないので、業務ウェイトは0.00にしてある。				
	0.00					0.00					
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 				1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。				
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。						<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。					

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)											
名 前		森 まゆみ(上原 由記音)		所 属		教育学部 学校教育教員養成過程		職 名		教授	
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定				業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果				
教育	0.30	「ピアノⅠA、ⅡA」、「演奏学研究」、「ピアノ特講」を担当し、ピアノを弾くための基礎的な身体作りを固めたうえで、学生各自の目標を反映させたプログラミングを作り、実践をスタートさせる。「音楽1組、2組」では音楽的学習経験の異なる学生に対し、それぞれの理解度に即した課題の与え方を模索する。「キーボードハーモニ」では、小中高の共通課題曲を中心にコードネームの理解を深め、伴奏法を実践する。「心理臨床科学コース」の協力教官として、ゼミに参加する。				0.30	「ピアノⅠA、ⅡA」、「演奏学研究」、「ピアノ特講」では、学生各自の目標達成の進捗度を可視化させるため、また、基礎的な身体作りを確認するために、履修カードを制作した。この成果の一つとして、学生の向学心が高まり、2名の生徒が学外のピアノコンクールに参加し、現在両名とも予選を通過した。「音楽1組、2組」では、基本的な音楽理論および実践のための教科書「音楽実技演習」を上梓した。現3年次は2名が、ゼミ仮登録希望している。休学し東京での職業体験を行っている学生と東京で面談した。7月に授業評価のアンケート調査を実施した。2013年12月音楽専修学生のために、学内でピアノリサイタルを行った。				
研究	0.20	本年、生誕120年のスペインの作曲家フェデリコ・モンポウ、生誕230年のアントニオ・ソレルを研究し、その生涯と作品についてレクチャーおよび演奏を発表する。				0.30	2013年4月16日および9月11日フェデリコ・モンポウのレクチャーコンサートを行った。同12月13日教育大学音楽部会九州沖縄地区学会に参加して、「スペイン近代民族楽派」としてアルベニス、ファリャの作品を演奏発表した。2014年3月9日東京にてバッハ、ドビュッシー、グラナドスによるピアノリサイタルを行う。2014年3月25日より30日までスペインバルセロナにて、グラナドスの研究を行う。				
社会貢献	0.30	スペイン音楽普及のために一般公募による演奏会「第6回スペインピアノ作品を弾く会」を企画、運営し、希望者には指導も行う。ピアノ講師対象に関東および九州地方にてピアノ演奏法を指導する。ギター学習者のための演奏も行う。スペインの作曲家アントニオ・ソレルの生誕230周年の国際音楽祭に際して日本代表として参加し、世界へ向けてスペインのバロックを紹介する。沖縄には、本年新任のため、社会貢献の為の、まず第一歩として、演奏会開催などを通じて、沖縄でのコミュニティ作りを始める。				0.20	2013年5月12日スペイン音楽普及のために一般公募による演奏会「第6回スペインピアノ作品を弾く会」を企画、運営した。2013年12月27日「青少年の為のスペイン音楽コンクール」のための公開レッスンを東京にて行った。2014年2月15日16日九州佐賀県にてピアノ講師対象に指導を行った。2013年9月29日スペインの作曲家アントニオ・ソレルの生誕230周年の国際音楽祭に際して日本代表として参加し大阪でリサイタルを行った。日本スペイン交流400年記念として文化交流協会を服部洋一氏とともに立ち上げ、2013年11月24日東京28日沖縄にてコンサートを行った。				
管理運営	0.10	共同研究推進委員として参加し、共同研究者とどのような研究の可能性があるかを探る。				0.10	教員人事採用選考委員会に委員として参加。センター試験リスニング担当として参加。大学院入試問題および学部入試問題を作成した。入試後期日程の監督として参加。教員候補者選考試験対策セミナーを行った。				
進路指導	0.10	「卒業研究A」および「演奏学研究ⅠA」を履修している学生に進路指導をしていく。				0.10	卒業年次1名に対し、大学院での研究テーマを指導し、院入試を受験合格させ、26年度ゼミ生として受け入れる。				
	0.00					0.00					
計	1.00					1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。				
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。						<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1)本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)						
名 前	岡田 恵美		所 属	教育学部 学校教育教員養成過程	職 名	講師
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定		業務 ウエイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果	
教育	0.45	1) 学生の活発な意見や積極的な授業参加が促進されるような授業デザイン 2) 映像教材・音響教材やPPTを使用した視覚効果の高い授業プレゼンテーション 3) 教員採用試験を意識した授業内容および理解度テストの実施 4) 新入生合宿運営における1年次学生の授業・支援および事後の分析		0.60	本年度は、着任2年目であったが、新しく担当する授業も一段と増えたため、当初の想定以上のウエイトでもって、教育活動に従事した。 1) 学生の活発な意見や積極的な授業参加が促進されるような授業デザイン 各学生がテーマを決めて調査を行い、それを授業でプレゼンテーションする機会を設けた。学生は発表内容やプレゼン方法など、互いに刺激し合って工夫する場面も多く見られ、自主性が高くかつ対話型の学びの環境を提供できた。 2) 映像教材・音響教材やPPTを使用した視覚効果の高い授業プレゼンテーション 担当授業では、音源資料や映像資料、またパワーポイントを効果的に用いた。また、担当している講義系授業7科目において、各授業で使用するテキスト教材およびPPT教材をすべて独自に作成し、授業後に学習内容の振り返りが容易なように、できるだけ配布資料も細やかに用意した。 3) 教員採用試験を意識した授業内容および理解度テストの実施 専門科目においては、沖縄県の教員採用試験(中高音楽)の過去7年間の問題傾向を分析し、一部の授業では採用試験を意識した理解度テストや過去問題の解説も行った。 4) 新入生合宿運営における1年次学生の授業・支援および事後の分析 来年度4月の教育学部新入生合宿に向けて、昨年から引き続き、後期の「地域文化交流実習」を担当した。新入生を迎え入れる合宿運営に関わりたいという学生達(通称CATS)、即ち本科目の受講希望者は79名にも達し(抽選で40名とした)、教育学部学生にとって、合宿運営を行うCATSの活動が非常に大きな存在となっていて、これを踏まえて、学生の自主性を尊重しつつも、常に横からサポートできる体制を作り、情報共有のシステムや他者への配慮など、細やかなアドバイスを行っている。 1月にはCATS学生40名と1泊2日の予備合宿を行い、本研修に向けて現在準備中である。 その他 5) 他学部の学生の履修増加 「民族音楽学」の授業では、音楽科の専門科目であるにも関わらず、シラバスを見て受講する他学部の学生が増加した。(今年度は12名) 音楽や文化に関心のある様々な分野の熱心な学生が集う授業となった事で、当該学科の学生達の刺激剤にもなった。 6) プロジェクト「OKINAWA⇄WORLD 沖縄で世界音楽を感じる」の実施 また、私自身がプロジェクトとして行っている、「OKINAWA⇄WORLD 沖縄で世界音楽を感じる」を第6弾まで実施する事ができ、沖縄を拠点とした外部のミュージシャンと連携しながら、多くの学生達に、世界各国の音楽の歴史的背景や楽器、奏法など、実際の演奏を通して交流する機会を提供できた。(本年度は、フラメンコ音楽・舞踊、インド古典音楽、キューバ音楽)	
研究	0.25	1) 科研費・若手研究B(27年度)までの研究推進・海外調査実施 2) 所属学会・共同研究会・シンポジウムでの発表 3) 国立民族博物館の共同研究(26年度まで)推進および発表		0.20	1) 科研費・若手研究B(24年度～27年度)の研究推進・海外調査実施 本年度は本科研プロジェクトの2年目であり、8月末から3週間にわたって、研究対象地域であるインドのナガランド州を中心としてフィールドワークを実施した。インタビュー調査や映像記録、資料収集も順調に進み、今後の研究の発展への足掛りとなる充実した調査となった。 2) 所属学会・共同研究会・シンポジウムでの発表 国立民族学博物館の研究会で5月に口頭発表を行った。 3) 国立民族博物館の共同研究(23年度～26年度)推進 本年度は、共同研究会に2回参加して活発な議論を行い、来年度の最終年度成果発表へ繋げたい。 琉球大学に着任後は、通常の授業数や委員会活動等が非常に多く、研究時間が十分に取れない状態が続いてきた。授業のない2月・3月中に研究活動を進めたいと考えている。	
社会貢献	0.05	1) 所属学会・委員会への参画 2) 教大協音楽部門全国大会での係		0.01	1) 所属学会・委員会への参画 今年は所属学会の大会と学科行事が重なってしまったため、活動できなかった。 2) 教大協音楽部門全国大会での係 教大協音楽部門大会では、部会の記録係ならびに全体会での報告者として、重要な業務にあたった。 その他 3) 日印国交60年記念の文化交流での演奏活動 沖印(沖縄・インド)友好協会主催による、日印国交樹立60周年記念「インドの祭典」にて、沖縄県内2カ所で、インド楽器の演奏を行った。	
管理運営	0.20	1) 学生生活委員における貢献(新入生合宿運営、認定試験作成など) 2) 所属学科の管理運営における貢献 3) 入試関連業務における貢献		0.18	1) 学生生活委員における貢献 今年度は、学生生活委員の合宿ワーキンググループ長として、4月および1月の合宿や、教育欄(4)で先述した「地域文化交流実習」の授業を担当し、CATS学生の指導にあっている。 2) 所属学科の管理運営における貢献 教室使用の管理、美化委員などを担当している。 3) 入試関連業務における貢献 詳細な内容は書けないが、今年度も時間的にも精神的にも非常負担が大きかった。 4) 認定試験の問題作成 教員採用試験セミナーの認定試験の問題作成、及びその解説、学科学生へのフィードバックを行った。	
進路指導	0.05	1) 1年次指導教員としての学業・生活面での意見聴取やサポート 2) 教員採用選考試験受験者へのサポート 3) 休学者・長期欠席者へのサポート		0.01	1) 1年次指導教員としての学業・生活面での意見聴取やサポート 指導教員の年次学生を中心に、合宿や懇談会を通して、学業や生活状況の把握を行い、重要な事項については頻りに連絡を取った。 2) 教員採用選考試験受験者へのサポート 管理運営欄の(4)に前述したように、認定試験の前は、過去問題の分析・解説を行い、認定試験受験者には、フィードバックを行った。 また教員採用試験受験者(音楽)の二次試験対策として、三線の対策の機会を設けた。 3) 休学者・長期欠席者へのサポート 長期欠席者には時折メールでの連絡や面会を行った。	
計	1.00	・ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。			<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		永津 禎三	所 属	教育学部 学校教育教員養成課程	職 名	教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果	
教育	0.30	昨年度に引き続き、小学校教科科目「小専美術」、および、専門科目「絵画基礎」の授業改善に取り組み、授業内容の変更による教育効果を検証する。 「絵画演習」の授業がより卒業研究に結びつくよう授業方法を改善する。		0.30	「小専美術」及び「美術って何？」の実技課題について改善が出来、より学生の興味関心を引き出すことが出来た。「絵画演習」については卒研ゼミとして受講する学生はならず、一選択科目として教材開発を行った。この中で、版画教育の実践で新しい発見があり、これを来年度中には紀要論文にまとめた。	
研究	0.50	昨年度開始したTurbulence Seriesの絵画作品を展開する制作を行う。 附属中学校美術教員と教材開発・授業実践についての共同研究を行う。		0.50	9月10日から沖縄県立博物館・美術館で開催された「緑の抒情 安次嶺金正展」のシンポジウムパネリストを依頼され、これをきっかけに、安次嶺についての研究を進め、新事実も発見。琉球新報紙に発表した。研究を続行中で、来年度中には論文にまとめる予定である。このため、制作にはあまり時間を割けなかった。	
社会貢献	0.10	昨年度個展を開催した「葵倶楽部」での若手アーティスト支援等の事業に協力する。 要請があれば、Advisory Staff 派遣事業等に協力する。		0.10	県委託事業＝MSP(沖縄県の子どもの学びと育ちを支えるプロジェクト)の指定校浦添市立沢岬小学校の校内研修に参加。引き続き図工授業(玉城寛奈先生)の教材開発や授業改善の支援を行った。	
管理運営	0.05	教室主任および専修主任としての職務を遂行する。		0.05	教室主任および専修主任としての職務を遂行した。	
進路指導	0.05	認定試験について一部の問題作成および問題全体の取りまとめを行う。 沖縄県小学校の教員採用試験から図工の実技が無くなったが、県外等教員採用試験の支援の要請があればこれに応える。 県内学校の補充教員や非常勤講師等への採用に向け学生を支援する。		0.05	認定試験の絵画・版画、材料、絵画史領域の問題作成および問題全体の取りまとめを行い、新しい学生生活委員への引き継ぎを行った。 私立学校の美術教諭の後任採用に協力で、今後も補充教員や非常勤講師採用に向け学生支援を続ける。	
	0.00			0.00		
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)							
名 前		奥田 実	所 属		教育学部 学校教育教員養成課程	職 名	教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果		
教育	0.26	<ul style="list-style-type: none"> ・共通教育科目「陶芸の世界」～最新の情報を取り入れた、分かり易い授業 ・教職科目「小専美術B」～講義と実技を交えた、図画工作基礎の授業 ・教科専門科目「工芸基礎」「陶芸Ⅰ・Ⅱ」～小・中学校現場での授業も念頭においた実技指導 		0.25	<ul style="list-style-type: none"> ・前期開設科目～「陶芸の世界」「小専美術B」「美術特殊講義A」 ・後期開設科目～「工芸基礎」「陶芸Ⅰ」「美術特殊講義B」 ・「美術特殊講義A・B」は科目等履修生受け入れのため開設 ・「陶芸Ⅱ」は非常勤講師で対応 		
研究	0.03	<ul style="list-style-type: none"> ・学校現場で応用できる、低火度で焼成が容易な実用陶器制作技法の開発 		0.03	<ul style="list-style-type: none"> ・急熱急冷による破損を防ぐための野焼き焼成実験を行い、小学校図画工作の授業でも可能な簡便な方法で9割程度の歩留まりを得ることを検証 		
社会 貢献	0.03	<ul style="list-style-type: none"> ・発達支援教育に関わる現職教員への、図画工作・美術分野の指導助言 		0.03	<ul style="list-style-type: none"> ・彫刻家藤田昭子氏の依頼により、沖縄県内に設置されている氏の屋外彫刻のデータを収集・整理 		
管理 運営	0.63	<ul style="list-style-type: none"> ・教育学部附属小学校長として設立目的に従った学校経営～児童の成長と安全のための学校運営、少人数学級の導入と検証、教育実習生の受け入れ、教員の実践研究の統括、県教育庁及び各教育委員会との交流、近隣諸地域との交流 ・教育学部附属発達支援教育実践センター運営委員 		0.66	<ul style="list-style-type: none"> ・1・2年生の低学年26・27人学級の導入により、全20学級態勢を整える ・北海道教育大学附属旭川小学校との交流事業により、6月旭川小学校児童の受け入れ、7月事業の継続に関して旭川小学校に於いて校長等と協議、2014年1月本校児童60名による旭川訪問の引率 ・教育実習生の受け入れ～小学校73名、心理臨床実習、養護教諭他 ・附属中学校及びPTAと共同して、平成26年度九州国立大学附属学校連盟主管実行委員会を立ち上げる ・4月発達支援教育実践センター運営委員会に出席 		
進路 指導	0.05	<ul style="list-style-type: none"> ・美術教育専修4年次指導教員として、履修及び教員採用試験準備指導 		0.03	<ul style="list-style-type: none"> ・6月及び10月に年次懇談会を行う ・9月個別に履修カルテ及び卒業要件の最終確認 		
	0.00			0.00			
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)							
名 前		並河 裕	所 属		教育	職 名	教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果		
教育	0.30	専門科目においては、ゼミ形式(ディスカッション)を積極的に取り入れる。特にパソコンを使ってのエータ分析能力の向上を図る。共通教育においては、今年度から健康スポーツ科学演習(2単位)を1年次を対象に実施することになり、スポーツ実践と理論を同時に学ぶことにより学生のスポーツマネジメント能力を向上させることを重点的に行う。		0.30	専門科目に関して、今年度は視聴覚機器が整備された教室で授業を行うことができ、学生の理解度や統計ソフトを使用したレポート作成の向上が見られた。また、統計の授業では、パソコンを利用した統計分析能力に一定の向上が見られた。共通教育では、実技技能の向上及び生活行動への「気づき」等に効果が見られた。		
研究	0.30	今年度の研究は、「競技者の満足度に関する研究」と「スポーツ関与に関する研究」に着眼点をおき、国内外の先行研究の収集と研究の枠組みを設定する段階まで進めることに力点をおく。		0.30	「競技者の満足に関する研究」では、本県の中・高校正のデータ分析を終たところである。「スポーツ関与に関する研究」では、国内外の文献収集の途中である。今年度は、沖縄県のスポーツ少年団の実態調査を実施し、データの分析及びまとめを終えたところである。		
社会貢献	0.10	学外のスポーツ団体、特に沖縄県体育協会が実施するスポーツに関する調査研究に、できる限り協力する。		0.10	前述のスポーツ少年団の調査には、沖縄県体協の協力を得た。このことに対して、論文とは別に沖縄県スポーツ少年団の実態についての報告書を作成し、体協に送る予定である(3月中)。		
管理運営	0.10	学部においては、保健体育分野の認定試験問題の作成および教室のとりまとめ等、学生生活委員としての責務を果たす。さらに、保健体育教室においては、教室全体の行事および業務についての管理運営に当たる。今年度は採用人事を予定しており、これに関する公募および審査等がスムーズに進められるように努める。		0.10	今年度は、保健体育分野に関するすべての教員採用認定試験問題を作成した。また、認定試験に関しての学生への対応とに当たり、学生生活委員としての一定の責務を果たした。教室の運営については、1名の教員が採用され、その他の行事や業務に従事し、一定の役割を果たした。		
進路指導	0.20	教員採用認定試験の問題作成に関わる。卒論ゼミ生(4年次2名、3年次2名)には指導教員としての卒論指導を行う。3年次には指導教員として、教職演習及び1・3合同合宿研修の実施、そして適時進路指導に関するアドバイスができるようにコミュニケーションを図る。		0.20	卒論ゼミ生2名から、1名の小学校教員合格者を出すことができた。また、3年次には卒論のテーマなどに一定の方向性が見られるようになった。今後さらに、コミュニケーションをはかり、適切な指導を心がけていく。		
	0.00			0.00			
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		小野寺 清光		所 属		教育学部 学校教育教員養成過程		職 名		教授	
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定				業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果				
教育	0.40	①電気電子系講義に関し、実践的な教育力を養うことを目的に、小中学校の教材開発に資する実習内容を積極的に取り入れていく。 ②附属中体験授業(7月)を実施する。				0.30	①「現代制御工学特論」では、ロボット制御に関するものとして、新たに電磁リレーを活用したラインレース教材の製作を導入。「生活科教育概論」では、風で動く車を題材に4人グループでのマインドマップ作成に基づく指導案づくりおよび発表を実施。 ②附属中3年生を対象に、LED工作と白熱球との差異に関する体験授業(7月)を実施。				
研究	0.50	①中学生向け二足歩行ロボットの教材開発を実施する(修論)。 ②小学生向けLEDを用いた工作教材開発及び体験授業を実施する(卒論)。 ③圧電素子を用いた発電床の試作を開始する。				0.60	①chevishieリンクと運動スライダリンクを用いた2種類の二足歩行ロボット教材を開発し、リンクによる歩行の違いについても考察。 ②附属小6年生に対しLEDランタン教材を活用した研究授業を実施。LEDの色を楽しむ工作教材を開発し、LEDの省エネの原因をその単色性から実験的に検討する授業とした(2月)。 ③圧電床厚さと発電量の実験的考察を行い、産技学会九州大会にて発表(10月)				
社会貢献	0.00					0.00					
管理運営	0.05	①情報システム運用・管理規定の施行に合せ、全学情報システム運用委員会の部局技術責任者として、部局委員会の運営、手順書等の作成を行う。				0.05	①全学情報システム運用委員会部局技術責任者として、運用・管理規程部の部局内周知、および、部内システムの把握、定期点検の手順書(案)の校正を実施。 ②全学学生生活委員会委員として、琉大祭の学生指導をはじめとする、学生生活の管理運営に参画。				
進路指導	0.05	①1年次指導教員として学生の状況を細かく把握し、履修指導、生活指導を行う。 ②研究室学生については、B4、M2の進路指導を強化する。特に教員採用への応募に関しては、県外も積極的に視野に入れるよう指導していく。				0.05	①新入生合宿(4月)に参加すると共に、年次指導教員として履修指導や小中選修登録指導などを継続的に実施。 ②B4、M2に関しては大学推薦も含め、県外も積極的に視野に入れるよう指導。また、研究室内で教員採用試験対策の勉強会も実施。				
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。				1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。				
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。						<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		福田 英昭	所 属	教育学部 学校教育教員養成課程	職 名	教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果	
教育	0.25	①「職業指導」(前期および夏の工学部集中講義)の毎回の講義内容を公開するため、研究室のホームページを更新する。②木工室の設備更新調査票を作成し、古い木工機械の設備更新を行う。③前期の講義「木材加工基礎」、「木材材料学」および「職業指導」を一般向けの公開授業に設定する。④2年前から新設開講された前期の「小学校ものづくり実習Ⅰ」および後期の「小学校ものづくり実習Ⅱ」の講義の新規教材開発を行う。⑤研究成果の内容を「木材材料学」の講義内容に反映させる。⑥講義「ものづくり」において、新規の製作題材を開発する。		0.25	①③④⑤⑥については、予定通り実施できた。②の木工室の設備更新については、施設設備更新の申請書類を作成できなかったが、研究費で糸鋸盤(2台)を購入することができた。また、⑥の講義「ものづくり」において、新規の製作題材として、鋳造(キーホルダーづくり)とあやつり人形の題材をつくることができた。また、例年、夏休み期間中に実施していた工学部夜間生の学生のための講義「職業指導」は、今年は学生の要望を受けて、後期に開講することができた。	
研究	0.25	①研究室の紹介および研究成果を紹介するため、研究室のホームページを更新する。②研究課題「児童・生徒の教室用机・椅子の検討」のデータを分析し、教育学部紀要に論文を投稿する。③前村(社会)、岡本(技術)、仲間(美術)先生と共に2年前からスタートした紙漉き研究会を継続し、紙漉きの新しい教材・教具(簀笥など)を開発し、地域の小・中学校で紙漉き体験プロジェクトを実施する。		0.25	①のホームページ更新は、わずかではあるが更新ができた。②の論文投稿についてはできなかったが、③の紙漉き研究会のメンバー5名で、教育実践総合センター紀要論文(2014.1月締切)に論文を投稿することができた。また、県委託事業(MSP事業)に紙漉き研究会でプロジェクトを立ち上げて参加し、中城南小学校において、子どもたちと紙漉き体験を実施することができた。また、本年度、沖縄美ら島財団 調査研究・技術開発助成事業の助成金として、紙漉きプロジェクトが採択された(約69万円)。また、農学部の教員と共に申請した琉球大学中期計画達成プロジェクト経費(戦略的研究推進経費)が採択され(約683万円)、森林教育を担当した。	
社会貢献	0.15	①沖縄県立芸術大学において開講される「図法及び製図」(通年)の非常勤講師を担当する。②日本産業技術教育学会の九州支部理事として、学会の運営活動を行う。③国頭村主催の「木工マイスター養成講座」に協力し、製作題材と講座テキストの開発を行う。④沖縄エネルギー・環境教育研究会(清水洋一先生 代表)の連絡係として、定例研究会を執り行い、各種イベントや出前授業等の企画・運営を行う。		0.15	①については予定通り県立芸大で非常勤講師を担当できた。②の学会活動については、理事として運営活動を行った。③については国頭村主催の木工関連の講座は本年度は休止であったため、2013.11月に開館した国頭村の森のおもちゃ美術館のオープンに向けた事業支援活動を行った。④については、本年度は特に活動を行っていない。予定外の事項として、アドバイザー・スタッフ派遣事業により、那覇国際高等学校において、保護者向けに進路指導の講演会を行った(88名参加)。また、修学旅行で琉球大学へやってきた4校の高校生向けに、平和学習・基地問題の講演・ワークショップを行った(70名、20名、275名、70名参加)。	
管理運営	0.25	①副学部長として(学部運営会議のメンバーとして)、中期計画進捗状況報告、各種予算申請書の作成、教員活動評価を行い、予算配分、人事調整、附属学校運営、施設見直し等を企画・実施する。②学部の教育・研究企画委員長として、本年度からスタートする沖縄県委託事業「学力向上先進地域育成事業」を企画・運営する。③学部の入試委員として、県内高校で開催される入試説明会に参加し、琉球大学オープンキャンパスの企画・運営を行う。④日本教育大学協会九州地区技術教育部門の全国委員として各種調査に協力する。		0.25	①②④については、ほぼ予定通り実施することができた。特に②の県委託事業(MSP事業)においては、プロジェクト立案班長として、また、沖縄市グループのチーフとして仕事をすることができた。③の入試委員では、県内高校での入試説明会は本年度から入試課が中心として行うこととなったため、業務はオープンキャンパスの企画運営が中心となった。	
進路指導	0.10	①技術教育専修学生と大学院生の履修指導等を行い、進路相談を行う。②「職業指導」の講義で受講学生に最新の就職関連情報を提供する。③技術教育同窓会の書記・会計担当者として、技術教育専修の卒業生の動向をチェックし、会員データベースを最新のものにする。		0.10	①②③については、予定どおり実施できた。	
	0.00			0.00		
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)						
名 前		清水 洋一	所 属	教育学部 学校教育教員養成過程	職 名	教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果	
教育	0.35	1)前期・後期合わせて学部9科目、大学院8科目(熱工学特論・同演習、エネルギー変換工学特論・同演習、課題研究ⅠA・ⅠB、課題研究ⅡA・ⅡB)の講義を行う。2)卒業研究及び修士論文の指導を行う。3)エネルギー関連施設の見学会をコーディネートする。4)附属小・中学校の研究授業の支援や教材開発を協同で行なう。5)外国人研究生2名の指導教員を務める。6)観光科学科・「総合環境学概論」を1コマ担当する。		0.35	1)前期・後期合わせて学部8科目、大学院8科目(熱工学特論・同演習、エネルギー変換工学特論・同演習、課題研究ⅠA・ⅠB、課題研究ⅡA・ⅡB)の講義・実習等を行った。2)卒業研究及び修士論文の指導を行った。3)那覇市温対協議会の会員を対象にゴミ処理施設、し尿処理施設等の見学会を実施した。4)附属小・中学校との共同研究、研究授業の支援や教材開発を行った。5)外国人研究生3名(10月から1名増)の指導教員を務めた。6)観光科学科・「総合環境学概論」を1コマ担当した。	
研究	0.35	1)日本エネルギー環境教育学会や沖縄エネルギー・環境教育研究会において、研究発表や教育実践を行う。2)国際会議(タイ国)において研究発表を行う。3)海を活かした教育PJにおいて、海洋エネルギーに関する教材開発及び教育実践を行う。4)小中学校における海洋エネルギー教育実践校のネットワークづくりを推進する。		0.35	1)日本エネルギー環境教育学会第8回全国大会(島根大学)において3件の研究発表を行った。2)50周年記念館にて、沖縄エネルギー・環境教育研究会主催のワークショップ開き、総合司会及び講演を行った。3)JTL-AEME2013(タイ国・バンコク)において研究発表を行った。4)海を活かした教育PJにおいて海洋エネルギーに関する教材開発を行い、恩納村立仲泊中学校及び中城村立中城中学校にて出前授業を行った。5)附属小・中学校、仲泊中及び中城中学校の4校で海洋エネルギー教育実践校のネットワークをつくった。	
社会貢献	0.20	1)平成25年度琉球大学公開講座を実施する。2)小・中学校等へ出前授業を実施する。3)沖縄の産業まつり、県民環境フェア等にて、エネルギー環境教育に関する普及・啓発活動を行う。4)琉球大学生協・理事長を務める。5)アジェンダ21県民会議・副会長を務める。6)環金武湾地球温暖化対策地域協議会の会長を務める。7)那覇市温暖化対策協議会の会長を務める。8)平成25年度琉球大学教員免許状更新講習を担当する。9)沖縄地方コージェネ協議会の委員を務める。10)沖縄ガス創立55周年記念講演会にて講演を行う。		0.20	1)平成25年度琉球大学公開講座を2回実施した。2)那覇市立仲井真小学校、恩納村立仲泊中学校及び中城村立中城中学校において出前授業を実施した。3)沖縄の産業まつり、識名つ子祭り(識名小学校)にて、エネルギー環境教育に関する普及・啓発活動を行った。4)琉球大学生協・理事長を務めた。5)アジェンダ21県民会議・副会長を務めた。6)環金武湾地球温暖化対策地域協議会・会長を務めた。7)那覇市温暖化対策協議会・会長を務めた。8)平成25年度琉球大学教員免許状更新講習を担当した。9)沖縄地方コージェネ協議会の委員を務めた。10)沖縄ガス創立55周年記念講演会にて講演を行った。11)沖縄市地球温暖化対策実行計画策定委員会・委員長を務めた。	
管理運営	0.05	1)教育委員会委員及び教員養成課程部会長を務める。2)ESD検討WGの学部委員を務める。		0.05	1)教育委員会委員及び教員養成課程部会長を務めるとともに、全学学士教育プログラム委員会に出席した。2)財務・施設管理に関する自己点検・評価委員会委員を務めた。3)3件の教員選考委員会委員(うち1件は委員長)を務めた。	
進路指導	0.05	教員採用試験対策の一環として、適宜、担当する講義・実習等を通して、関連する過去問題について詳説する。		0.05	教員採用試験対策の一環として、適宜、担当する講義・実習等を通して、関連する過去問題について解説すると共に、進路・就職に関する指導・助言を行った。	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)							
名 前	新垣 学		所 属	教育学部 学校教育教員養成過程		職 名	講師
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果		
教育	0.35	<ul style="list-style-type: none"> 組込型コンピュータを利用した教材を授業に取り入れる。 学生が学習結果を発表および卒業後も復習できるように、ホームページを製作する能力を養成するとともにその更新を支援する。 学生へ学習環境を提供するため、ネットワーク及びコンピュータの管理。 教育実習生への指導・助言 		0.35	<ul style="list-style-type: none"> 組込型コンピュータを利用した自立走行車の製作を授業に取り入れ、学生がライトレースや目目の8の字走行、照度に応じ点滅パターンが変わる信号機のためのプログラミングを行えるようにした。 開講した5つの講義において学習結果を各自のホームページに掲載できるように指導した。 無線ネットワークを技216に整備し、他の教員の講義においても利用できるように整備および管理した。 教育実習生3名の授業を参観し、指導助言を行った。 		
研究	0.30	<ul style="list-style-type: none"> 新学習指導要領を鑑みた組込型コンピュータを利用した教材開発。 教員免許更新講習用教材の開発 		0.20	<ul style="list-style-type: none"> 組込型コンピュータを利用した教材開発のための資料収集やITフェアから中高生の技術レベルを観察した。 教員免許更新講習用のマニュアルの作成を行った。 		
社会貢献	0.10	<ul style="list-style-type: none"> 教員免許状更新講習を開講する。 		0.15	<ul style="list-style-type: none"> 教員免許状更新講習として「マイコンを用いたおもちゃ作り」を2回開講した。 また、講習をスムーズに行うための試みとして全員分の基板をある程度組み立て半完成品とした。結果として受講者の評価で高評価を得ている。 		
管理運営	0.20	<ul style="list-style-type: none"> 教育実習委員およびその部会長としての業務を行う。 3年次指導教員としての業務を行う。 入試に関する問題作成および、監督又は警備を行う。 		0.25	<ul style="list-style-type: none"> 介護等体験指導の部会長として各回の日程および講師の手配や、各市町村の社会福祉協議会と交渉し、100名分の車椅子を手配する作業を行った。 教育実習委員としての各施設への学生の引率、施設や実習先との連絡、種々の体験のための学生管理といった業務を行った。 3年次指導教員として各学期ごとの学科別懇談会および種々の連絡、2学年分の履修カルテのチェックを行った。 推薦入試、大学院入試などの入試に関する業務を行った。 エコロジカルキャンパス推進委員の業務を行った。 		
進路指導	0.05	<ul style="list-style-type: none"> 3年次指導教員として進路指導を行う。 就職支援のために認定試験問題の作成を行う。 		0.05	<ul style="list-style-type: none"> 3年次指導教員として他県の教員採用の案内および就職説明会の案内を行った。 認定試験問題として技術分野の情報および栽培分野および、一般教養の情報の問題作成を行った。 		
	0.00			0.00			
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00	<ul style="list-style-type: none"> ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		岡本 牧子	所 属	教育学部 学校教育教員養成課程	職 名	講師
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定		業務 ウエイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果	
教育	0.25	附属学校以外の教育現場での活動を講義に取り入れる。沖縄の特色を活かしたテーマを講義に取り入れる。		0.25	技術科教育法Aの講義では、産業廃棄物に関するセミナーを取り入れることにより、学習指導案作成能力の強化を図る事ができた。技術科教育法Bでは、県立水産高校におけるタマン(ハマフエフキ)の栽培技術の見学と実習を通して「生物育成に関する技術」の教育強化を図り、沖縄の特色を活かした授業作りを学ばせる事ができた。	
研究	0.25	国内の学会誌へ投稿する。流れの夢コンテスト実行委員を担当する。		0.25	国内学会誌「エネルギー環境教育研究」に投稿する事ができた。日本機械学会流体工学部門の流れの夢コンテストに参加し、実行委員を担当した。The Japan-Thailand-Lao P.D.R. Joint Friendship International Conference on Applied Electrical and Mechanical Engineering 2013の運営委員担当。集光型太陽光発電装置に関する研究について、公益財団法人高橋産業経済研究財団より研究助成を受けることができ、研究を発展させる事ができた。	
社会貢献	0.20	大学の公開講座の講師を1件以上担当する。教員免許講習の講義を1件以上開講する。科学作品展等の学外イベントにおいて工作教室を1件以上行う。		0.20	大学の公開講座「おもちゃ作りを通して学ぶ地球温暖化防止親子講座」および「模型風力発電機の製作を通して学ぶエネルギー変換のしくみと再生可能エネルギー」を担当した。教員免許更新講習「エネルギー教育の基礎とエネルギー変換教材の製作」を担当した。沖縄青少年科学作品展では科学教室「ペットボトル風車と模型電気自動車作りを通した自然エネルギー教室」を開講した。	
管理運営	0.15	全学の発明審査委員を担当する。共同研究委員として附属中学校と技術教育専修との共同研究を活性化。学部の企画WGへ参画する。		0.18	全学の発明審査委員を担当し、委員会へ参加した。学部の企画WGへ参画したほか、学力向上先進地域育成事業「沖縄県の子どもの学びと育ちを支えるプロジェクト(MSP)」へ中城村グループ中城中学校のコーディネーターとして参加した。学部投票管理委員担当。	
進路指導	0.15	技術教育専修2年時の指導教員として、年2回の個別面談を行い、個々の取得希望免許に対応した履修指導を行う。		0.12	技術教育専修2年次の指導教員として、回数を限定せず必要に応じて個別面談や連絡を行い、取得希望免許に応じた履修指導や採用試験の過去問題の提供および解説等を行った。	
	0.00			0.00		
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00	・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前	花城 梨枝子		所 属	教育学部 学校教育教員養成課程 生活科学教育	
職 名	教授				
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果
教育	0.20	授業内容に最新の情報を入れる		0.20	①授業に最新の内容を入れた。 ②中国からの短期留学生2人に生活科学教育の学生がピアパートナーになれるよう、配慮して授業を行った。帰国時に感謝された。 ③開設していなかった生活経営学・経済学特講(自由科目)を開き、これまでの研究成果を教育へ繋げた。
研究	0.20	消費者市民教育について研究をすすめる		0.20	①日本消費者教育学会九州地区(2013/2/24)にて発表「中・高校生のインターネット利用と消費者教育」 ②消費者教育学会33冊(2013)「消費生活領域におけるインターネット関連授業実施の実態—高校家庭科教員へのアンケートをもとに」(古波蔵愛美加、花城梨枝子)pp.245—253
社会貢献	0.20	日本消費者教育学会理事 NPO消費者市民ネットおきなわ		0.20	①日本消費者教育学会理事 ②日本家政学会九州地区幹事及び26年度大会実行委員 ③講演：那覇市より教員対象の「消費者市民力を育てよう」(7月) ④学会査読2報：日本消費者教育学会 ⑤消費者庁主催、九州・沖縄ブロック消費者フォーラム、沖縄大会実行委員長 ⑥NPO法人消費者市民ネットおきなわ理事
管理運営	0.30	男女共同参画室の室長として女性研究者支援に関わる 学生生活委員		0.30	①男女共同参画室室長として女性研究者支援事業に関わっている。25年度の事業としては、メンター制度、トップセミナー2回等を含め多くの事業に関わっている。 ②学生生活委員を担当している。
進路指導	0.10	教員を目指す学生の教員採用試験支援		0.10	①1次試験に受かった過卒生の模擬授業の作成やその実施を支援した。支援をした学生は最終的に教員採用試験に合格した。
	0.00			0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		富士栄 登美子	所 属		教育学部 学校教育教員養成過程 生活科学教育専修	職 名	教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果	
教育	0.20	▼多くの学生が履修可能にするために夜間授業を開講する。 ▼学生の学生による学生のための教育をしたいと思っている。 ▼大学院生はもちろん、小学校教員としても専門職としての教員を目指した大学教育を行いたい。大学を予備校化してはならない。			0.30	▼夜間授業を開講し、多くの学生が履修可能となるように配慮した。 ▼専門職としての教員を目指した大学教育を行った。	
研究	0.20	▼日本家政学会全国大会に於いて、テーマ「フランス ストゥラスブールの乳幼児政策-訪問先Maison de l' Enfance から-」で発表。 ▼学会などの研究大会、研修会へ積極的に参加して研鑽を積む。			0.30	▼2013年5月17日日本家政学会第65回大会にて研究発表 ポスターセッション テーマ「フランス ストゥラスブールの乳幼児政策-訪問先Maison de l' Enfance から-」 於:昭和女子大学▼ 2013年9月20/21日日本家政学会九州支部第60回大会参加常任委員交代 ▼2014年3月1日日本家政学会服飾史・服飾美学部会研修	
社会貢献	0.20	▼平成25年6月に講演「ジェンダーイコオリティー～家庭の中の民主主義」 於: 宜野湾市人材育成交流センターめぶきを予定 ▼教員免許更新講習(教員からの要望を受けて2日間の実技講習)を平成25年8月に開設する。 ▼夏季休業中に名古屋女子大学に於いて[家政学原論]の集中講義			0.20	▼2013年6月18日講演「ジェンダーイコオリティー～家庭の中の民主主義」 於: 宜野湾市人材育成交流センターめぶきホール ▼2013年8月22/23日 教員免許更新講習実施 於: 琉球大学 ▼2013年9月9日～9月12日[家政学原論] 於: 名古屋女子大学	
管理運営	0.30	▼教育実習委員として、介護等体験、教職体験、教育実習など、学生への指導他、外部へ出向くことが多くなる。			0.15	▼2013年11月13日教職体験Ⅰとして附属中学校、教職体験Ⅱとして西原小学校へ、介護等体験として春華園、白浜の里 愛誠園、島尻特別支援学校へ、教育実習として附属中学校へ実習前挨拶のため出向く。 ▼学内での実習委員の中では、介護等体験部会に属し、介護等体験指導では、10月31日を分担。	
進路指導	0.10	▼1年次指導教員としての生活・進路指導を行う。 ▼教育実習委員としての教員になるための進路指導を行う。			0.05	2013年度退職のため1年次指導教員の副として生活・進路指導を行う。	
	0.00				0.00		
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。			1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		平良 勝明	所 属	教育学部 学校教育教員養成課程	職 名	教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果	
教育	0.35	英国や米国の最新記事や文学作品をホームページを介して教材として使用し、学生の英語圏への文化的理解を深めるとともに言語学習意欲も最大限刺激する教育を目指す。		0.35	最新のニュースや記事を逐次配信しているインターネットのサイトやその他のメディアコンテンツを利用して学生の英語圏への文化的理解を深める努力に努めた結果、学生の学習意欲や興味を向上させることに成功した。	
研究	0.35	Virginia Woolfの作品における断片的かつ融合的な意識世界の展開に関する論文を執筆する。		0.35	Virginia Woolfの前衛的で流動的な意識世界を研究・分析してそれを二編の論文に纏めて紀要等で発表することができた。	
社会貢献	0.20	ホームページ(http://www.cc.u-ryukyu.ac.jp/~iluvelyn/)を利用して英語の世界(言語ならびに文化)に親しみ、そして浸れるインターフェイスの構築ならびに充実を図る。		0.20	ホームページ、そしてマルチメディアコンテンツを利用した英語の世界そしてその文化に親しむことが可能なインターフェイスの整備・充実に取り組むことができた。	
管理運営	0.05	法文学部外国語系列教員と教育学部英語教育専修教員とで構成する教育委員会委員として外国語、並びに共通教育の発展と充実に寄与するとともに学部教育委員としてカリキュラムの円滑な遂行を目指す。		0.05	教育委員会委員委員として外国語、並びに共通教育の発展と充実に寄与するとともに、学科教育委員として学科の円滑なカリキュラム運営のために最善を尽くした結果、大学や学部に貢献することができた。	
進路指導	0.05	三年次指導教員として学生の教育並びに生活・進路指導に貢献する。		0.05	三年次指導教員として大学生活や学業に関する援助をメールやインターネット等を利用して積極的に行い学生の教育・生活指導並びに学生生活全般の充実に貢献した。	
	0.00			0.00		
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)						
名 前		山内 進	所 属	教育学部 学校教育教員養成過程	職 名	教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果	
教育	0.30	<ul style="list-style-type: none"> ・(前期学部担当科目)TOEFL演習、英文法演習、英語教育学演習 I ・(後期学部担当科目)TOEFL演習、英語科教育法C、英語教育学演習 II ・(前・後期研究科担当科目)英語科教育研究 I & II、課題研究I & II ・上記各担当科目のシラバスに掲載されている目標を達成できるように努力する 		0.30	<ul style="list-style-type: none"> ・学部、大学院科目とも予定どおりに授業を行った。 ・各担当科目のシラバスに掲げられている目標は概ね達成できた。 	
研究	0.20	<ul style="list-style-type: none"> ・九州英語教育学会『紀要』や沖縄英語教育学会紀要SELT-OKINAWA等への研究論文、研究ノート、エッセイなどの研究指導を行う ・九州英語教育学会会長として、今年8月の全国英語教育学会の地区担当課題研究フォーラム等の研究アドバイスを行う 		0.20	<ul style="list-style-type: none"> ・九州英語教育学会の会員に全国英語教育学会での分科会授業研究フォーラム発表の指導、アドバイスを行った。また沖縄英語教育学会会員への研究論文の執筆方法、実験方法の指導、および論文執筆等について指導を行った。 	
社会貢献	0.30	<ul style="list-style-type: none"> ・平成22年4月より九州英語教育学会会長に就任、九州地区全体の英語教育の発展に貢献できるよう、研究会等を企画、運営する ・沖縄英語教育学会会長として、同学会の主催する研究大会、その他諸活動の企画、運営を行い、県内中学・高校英語教員の資質向上を図る 		0.30	<ul style="list-style-type: none"> ・九州英語教育学会会長として、幹事会、理事会、研究大会等を通じて九州地区の英語教育の発展に努める。12月には学会の年次研究大会を佐賀大学にて行った。 ・沖縄英語教育学会は、2013年度に合計で3回の研究大会、講演会等を実施した。今年は特に高校の英語教育で導入された「英語で英語を教える授業」のワークショップをシリーズで行った。 	
管理運営	0.10	<ul style="list-style-type: none"> ・学部生活委員及び法文学部国際言語学科と共同の合同会議委員としての諸職責を果たす 		0.10	<ul style="list-style-type: none"> ・学部生活委員会では各種推薦・調査WG長としての職責を果たした。 ・法文学部国際言語学科との合同会議において紀要編集委員会に属し、紀要の発行その他の職責を果たす。 	
進路指導	0.10	<ul style="list-style-type: none"> ・学部生活委員及び法文学部国際言語学科と共同の合同会議委員としての諸職責を果たす 		0.10	<ul style="list-style-type: none"> ・生活委員として上記の職責以外に、認定試験の英語問題を作成する。また、教員採用試験対策セミナーでは小学校教員採用試験受験者に対し、英会話個人面談の指導を行う。 	
	0.00			0.00		
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前	大城 賢		所 属	教育学部 学校教育教員養成過程	
職 名	教授				
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果
教育	0.20	大学院:大学院2年次学生の指導教員として見通しをもった論文指導を行う。英語科教育特論(1年次)においては学生の興味関心に沿いながら講義を展開する。学部:4人の学生の卒業論文指導を行う。英語科教育法A、B及び外国語活動のクラスにおいては学生中心の講義を展開し、年度末には授業記録をまとめ、次年度の講義に活かす。		0.20	大学院2年次の学生は修士論文をまとめ修士論文審査に合格することができた。卒業論文の学生(教育学部実践学専修2人、法文学部国際言語2人)もほぼ満足のできる論文を書き上げた。英語科教育法及び外国語活動のクラスにおいては毎回授業リフレクションを学生に行わせ次の授業へ活かすことができた。個人のHPにおいて研究授業の様子や資料などを提供することができた。
研究	0.20	「韓国における英語教育の総合的研究」と「児童英検及び英語能力テストを用いた英語力と情意面の関連に関する研究」の二つのテーマで受託研究費を頂いている。この二つのテーマを中心に研究を行う。		0.20	韓国への調査2回、韓国研究者の招聘2回を行うことにより、「韓国における英語教育の総合的研究」が進んだ。小学校外国語活動についても、県内で児童英検及び英語能力判定テストを実施することができた。研究の成果は小学校英語教育学会全国大会及び日本児童英語教育学会全国大会にて発表した。「教育学部紀要」に論文を2本、「教育実践総合センター紀要」に論文を1本執筆した。受託研究費(300万円)を受けた。
社会貢献	0.20	小学校の外国語活動及び中学校、高等学校の英語指導法に関するセミナーや講演などを通じて地域への貢献を行う。		0.20	文部科学省「研究開発学校企画評価会議」委員。文部科学省「英語教育強化地域拠点事業」企画評価会議委員(主査)。文部科学省英語拠点校(那覇国際高校)運営指導委員会委員。浦添市英語教育推進委員会委員。福岡県教育センターにて講演。福岡県大牟田市立明治小学校にて講演。佐賀県吉野ヶ里町教員研修会にて講演。長崎県佐世保市教育センターにて講演。独立行政法人教員研修センターにて講演。徳島県教育総合センターにて講演。全国小学校英語活動実践研究大会にて指導助言。佐賀県英語研修会にて講演。研究授業等の指導助言(省略)。宜野湾市教育委員会評価委員。那覇西高等学校学校評議委員。
管理運営	0.30	教育学部附属教育実践総合センター長として、センターの管理運営にあたる。また、教育実習委員会委員長として教育実習全般を統括する。		0.30	教育学部附属教育実践総合センター長としてセンターの管理運営にあたった。地域連携部門は学力向上先進地域育成事業が加わり苦労したが、多くの先生方に支えられ何とか1年目の計画をやり遂げることができた。教育実習ではいくつかの問題が発生したが、関係者の協力もあり、何とか解決することができた。
進路指導	0.10	卒論指導の学生を中心に適切な進路指導を行う。		0.10	卒論指導の学生を中心に適切な進路指導を行った。
	0.00			0.00	神戸市外国語大学大学院にて夏期集中講義を行った。日本児童英語教育学会副会長。小学校英語教育学会常任理事。全国小学校英語教育学会全国大会実行委員長。
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		小林 正臣	所 属	教育学部 学校教育教員養成過程	職 名	准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果	
教育	0.30	①教育学部指定および英語教育指定の授業における英語力向上に努める。 ②上記以外の授業および卒業論文における知力向上に努める。		0.30	①「大学英語」(教育学部指定クラス)では、英語に対する苦手意識を軽減するために副教材を導入した。今後も継続して工夫を行いたい。 ②「基礎演習」などの専門科目においては、副教材を導入するなどの工夫をした。受講者たちの更なる満足を得られるようにしたい。	
研究	0.30	①24年度までの科研費による研究成果を拡充するために学会誌に継続的に投稿する。 ②学外との研究者の連携を深めて研究の充実化を図る。		0.30	①論文は計画通りに執筆および投稿が行えた。現在、審査結果を待っている。 ②学外の研究者との連携した結果、共訳書を出版することが出来た。	
社会貢献	0.05	①学外からの依頼で幼稚園免許取得希望者への英語教育を定期的に行う。		0.05	①英語教員として、学内では教えることが稀有である幼稚園免許取得希望者に向けた英語教育は、新たな知見を広めることが出来た。	
管理運営	0.30	①入試委員としての業務全般を遂行する。 ②外国語系委員会の業務全般を遂行する。		0.30	①オープン・キャンパスおよび入試に関わる業務全般を遂行した。 ②英語力委員として、大学IRコンソーシアムの連携事業に参加している。	
進路指導	0.05	①1年次指導教員として、履修指導および留学等の指導を適切に行う。		0.05	①指導教員として履修指導を行い、manabafolioによる指導も行った。	
	0.00			0.00		
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		道田 泰司	所 属	教育学部 学校教育教員養成過程	職 名	教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果	
教育	0.30	<ul style="list-style-type: none"> ・授業を行う(ゼミ, 集中講義も含め, 前期週9コマ, 後期週9コマ予定) ・丁寧な授業準備と授業改善 ・受講生から授業改善のための積極的な意見の聴取, それに基づく振り返り 		0.30	<p>前後期とも, 登録者のいない授業を除き, 予定通りに授業を行った。 毎回の授業に際しては, 前年度の反省を活かし, 改善をしつつ行った。 ほとんどの授業で, 学生に毎時間振り返りカードを書かせることで, 学生からの意見聴取を行った。</p>	
研究	0.30	<ul style="list-style-type: none"> ・データ収集, 分析, 投稿(科研費のプロジェクト) ・研究関連の情報収集 ・論文執筆 ・附属小学校における共同研究 ・書籍や雑誌などへの一般原稿執筆 		0.25	<p>科研費プロジェクトのデータ収集・分析／書籍(分担執筆)1冊刊行, 1冊執筆・編集 中／教育心理学年報論文刊行／学会の情報誌論文刊行／紀要論文2本掲載, 1 本投稿中／全国学会で発表1件／年間通して, 附属小との密な共同研究／附属中 にて共同研究。</p>	
社会 貢献	0.15	<ul style="list-style-type: none"> ・教員免許更新講習の講師 ・免許法認定講習の講師 ・その他研修会における講師 ・小中学校などにおける校内研講師 		0.20	<p>体験! 琉球大学で附属中3年生対象に講義／沖縄県看護教員養成講習会にて15 時間の講習／免許更新講習(必修領域:2日間), 認定講習(4日間)で講義／小学 校2校, 中学校1校で校内研講師／那覇市教育委員会指導主事研修会講師。</p>	
管理 運営	0.20	<ul style="list-style-type: none"> ・教育実践学専修教育実習委員として ・教育実践学専修における入試業務遂行 ・教育実践学専修で, 複数教員で持つ科目や行事の企画運営(小学校教育フィールド ワークなど) ・全学委員として(安全衛生委員会) 		0.20	<p>教育実践学の学生指導を, 主に教育実習委員として行った(介護体験, 教職体験, 公立実習での訪問を含め)／その他共同での授業科目運営にも全力を注いだ／例 年通り, 入試業務に従事した(学部, 大学院とも)／全学の安全衛生委員会に委員 として参加した。</p>	
進路 指導	0.05	<ul style="list-style-type: none"> ・ゼミ所属学部学生(計8名)を中心とした教育実習の視察・指導助言, 進路相談, 進 路指導 		0.05	<p>専修の学生・卒業生の進路状況について, アンケートその他のデータとの関連を統 計的分析によって検討した(成果は教大協の研究集会で報告)／教育実践学専修 所属3年生の教育実習を20時間ほど見学をし, 教育実践に関する情報収集ならび に指導助言を行った</p>	
	0.00			0.00		
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう, 記入してください。 ・記入量に応じて, 枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は, 「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定して ください。 		1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう, 記入してください。 	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には, 右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		小田切 忠人	所 属		教育学部 学校教育教員養成過程	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果		
教育	0.30	研究科では数学教育専攻の、学部では教育実践学専修および数学教育専修の講義やゼミを分担する。			0.30	予定の講義、ゼミなどを計画通り進めた。また、ラオス国立大学に数学教育専修の学生を留学生として派遣した。		
研究	0.30	研究会で研究成果の報告を行うとともに、科研費研究(「基礎数学学習にスペシャル・ニーズのある子への教育介入データベースの活用」(二年目)および「PISAの数学的リテラシー論の分析と日本の数学教育への批判的摂取についての研究」(共同、最終年度))を進める。			0.30	スペシャル・ニーズにかかる研究では、数学教育協議会第61回全国研究大会で発表し(「幼年期の算数」分科会)、また、オーフス大学のレナ教授の協力を得てデンマークのインクルーシヴ教育を訪問調査した。PISAにかかる研究では、ロスキレ大学のニス教授の協力を得て、デンマークのコンピテンシー概念による数学カリキュラム開発の実際を訪問調査し、その成果は福井大学で開催の合同研究会で発表した。その他、日本数学教育学会の論文発表会発表応募論文の査読を分担した。		
社会貢献	0.15	共同研究者として教育現場の授業づくりを支援する。			0.15	大浜中学校、八島小学校の特別支援学級の授業づくりを共同した。嘉数小学校、高原小学校、普天間小学校、神森小学校、仲西小学校、普天間小学校、塩屋小学校などの校内研究会に参加した。また、毎月火曜日定例研究会で現場教師と共同した。		
管理運営	0.20	教育研究評議員として大学の、および教育委員長として学部の業務を遂行する。			0.20	教育研究評議員として、また、教育委員長・教務委員長として大学及び学部の運営に関わった。		
進路指導	0.05	教育実践学2年の指導教員の一人として学生指導に当たる。また、学部の認定試験問題の作成や解説に協力する。			0.05	教育実践学2年次指導教員として履修指導等を分担した。また、学部の「認定試験」で作問や講師を分担した。		
	0.00				0.00			
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 			1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		加藤 好一		所 属		教育学部 生涯教育課程		職 名		教授	
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定				業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果				
教育	0.30	ゼミでは卒論指導をきめ細かく行うとともに、学生相互の学びあい・現場教員との交流をさらに推進する。社会科教育研究では模擬授業の個別相談を強化して授業力向上の手だてを伝習し、生活科教育研究では多人数化に対応して講義の準備改善に努める。				0.30	ゼミでは卒論指導をすすめるとともに、時に卒業生(4名中3名が現職教員)との交流を図って将来への展望を確かなものとした。講義においてはいずれも学生との交流を深めていくことができた。				
研究	0.20	道徳実践書(地歴社)及び『中学地理の授業』(民衆社)の執筆をすすめ、前書は今年度中に出版。教科化とは違う方向での道徳教育の研究を図るとともに、新指導要領に対応した中学社会科授業3分野の総まとめをする。伊東市史』近現代史料編 I も刊行。				0.25	これまでの研究を結実させた『中学地理の授業』『道徳実践書』『市史 近現代史料編 I 』はいずれも3月末に発刊できる。				
社会 貢献	0.20	沖中社研実践力講座(八重山及び本島)・島尻「小社を学ぶ会」を月1度ずつ開催し、実践相談にも応じて現場との連携を深める。大浜中との連携は石垣2中などにも広げたい。琉大社会科研究会・石垣社会科サークルも定期開催し、青年教師を育てたい。				0.20	実践力講座は島尻・宮古・国頭でも開催し、県内社会科中学教員を点から線へとつなぐことができた。研究会・社会科を学ぶ会も定期開催するとともに、そこに参加した教員の学校にも出張してさらに研修を深めることができた。				
管理 運営	0.10	FW II に関する業務を円滑に新担当者に引き継ぐ。また、教育研究企画ワーキンググループの1員としても、これまでの現場での取り組みを反映させながら事業の充実・実践ハンドブックの作成等に力を尽くす。生活科教育の業務も後継者に継承したい。				0.10	FW2の業務は円滑に引き継ぎを完了した。多くの青年教師への啓蒙書として『若い教師の実践ハンドブック』を発刊した。生活科の講師との交渉も引き継ぎ、次年度の体制についても話し合うことができた。				
進路 指導	0.20	4年次指導として、個に応じた進路相談と教採試験準備の支援に力を尽くす。同時に、琉大での最終年度であることに鑑み、他学年の学生とも教職生活と授業をめぐっての対話を深め、長い見通しと広い視野から教員としての生き方を考えさせていく。				0.15	教採試験については、県内外で受験24名中18名が1次合格・10名が2次合格という結果であった。各自の状況に応じてさらに支援をすすめていきたい。最終年度ということ意識して、学生とも広く交流をすすめることができた。				
	0.00					0.00					
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 				1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 				
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。						<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		上地 完治.	所 属	教育学部 学校教育教員養成過程 教育実践学教	職 名	教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果	
教育	0.25	昨年度からの継続課題である「学校教育リフレクション」(学部・専門科目)の内容を見直し、学生の学びたいニーズと理論的内容がより結びつくようにする。また、後期にはゼミの3年次生の卒論研究を例年以上にすすめることをめざす。		0.25	「学校教育リフレクション」の内容を見直し、学生が実践的課題と結び付けて考えやすいテーマ・資料で授業を構成した。学期末の評価対象となる学生の発表について、発表時間が短かったため、次年度は発表時間を45分に増やすことを検討したい。また、「道德教育の研究」で実践資料を多く活用した。	
研究	0.25	道德教育に関する科学研究費助成事業(基盤研究B)の2年目なので、引き続き理論的・実践的研究をすすめていく。また、その成果を学会で積極的に発表する。		0.20	科学研究費助成事業の成果を日本教育学会で発表し、『教育学部紀要』に投稿することができた。しかし、今年度後期には主に時間不足から研究活動が停滞してしまった。	
社会貢献	0.10	教員免許状更新講習(必修科目・選択科目)や教員免許状認定講習の講師を務める。また、公立学校からの指導助言の要請があれば積極的に出向っていく。		0.15	教員免許状更新講習(必修1講習、選択2講習)や認定講習の講師を務めた。それ以外に、附属小学校や多くの公立小・中学校からの要請に応じて指導助言を務めた。	
管理運営	0.30	学部運営会議の一員としてのさまざまな業務(とりわけ入試委員長としての職務)と、教員免許状更新講習実施室長の業務に取り組む。		0.35	入試委員長や教員免許状更新講習実施室長としての業務に取り組むほか、学部運営会議のメンバーとしての役割や、とりわけ「ミッションの再定義」や「学部組織の見直し」に関わり、多くの時間を費やした。	
進路指導	0.10	教育実践学専修4年次の年次指導教員として、学生の進路相談・進路指導に特別に時間を割いて丁寧に対応する。		0.05	教育実践学専修4年次の年次指導教員として、学生の進路相談・進路指導に取り組んだが、時間不足のために対応が丁寧とは言えなかったかもしれない。	
	0.00			0.00		
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		吉田 安規良	所 属		教育学部 学校教育教員養成課程	職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果		
教育	0.25	担当科目はほぼ全て「教員養成」と密接に関連しているため、教職志望の学生が、将来黒板を背にして教壇に立ったときに困らないような教育活動を行う。			0.15	学長補佐就任に際しての負担軽減が無かったため、一部受講学生に負担を強いることがあったが教育活動は行った。		
研究	0.10	日本財団助成事業「海をいかした教育に関する実践的研究」の事務取扱として研究同人が円滑に研究を進められるように必要な配慮をする。それ以外は、管理運営業務が膨大で時間的余裕がないので、必要最低限の研究を継続するにとどめる。			0.05	管理運営業務が膨大であり、自身の研究を進めるのは困難であったがいくつか次の研究の種を見つけた。		
社会貢献	0.075	教員免許状更新講習ならびに沖縄県教育委員会教育職員免許法認定講習の講師として地域の現職教師教育に貢献する。			0.20	左記目標に記された事項を行った。		
管理運営	0.50	(1)教育・学生支援担当の学長補佐として、全学的見地から必要な業務を行う。 (2)教育実践学教室主任として教室運営に際して必要な業務を滞りなく行う。			0.55	微力ながら学長補佐として諸会議に参加し、大学運営・経営面で学長を支援した。ただし会議と会議のための打ち合わせ等が講義等とかぶることがあった。とくに学部長からの事務長を通した呼び出しが授業中にあり、それに対応させられたために学生に負担を強いることとなったことについて(そもそも授業中に呼びつけることが問題だと思うが)受講学生に謝らなければならない。 教室主任として必要な業務を何とか行った。		
進路指導	0.075	教育実践学専修3年次指導教員として、村上呂里教授とともに学生指導にあたる。 教育実践学専修4年次の希望者を対象に就職対策を行う。			0.05	業務の過多から年次指導業務は村上呂里教授にかなりまかせる形となった。 教育実践学専修の学生を主な対象とした就職(教員採用試験)対策を行った。		
	0.00				0.00			
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。			1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)							
名 前		松本 由香		所 属	教育学部 学校教育教員養成課程	職 名	准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果		
教育	0.35	被服学および教育実践学の授業準備を充分に行い、授業の進度にしたがって進度を調整しながら、受講学生の授業目標の達成をはかる。また学生の学生生活全般についてのケアをきめ細かく行う。		0.40	被服学および教育実践学の授業準備は、新任年度であり、かなりの時間が必要であったが、学生にわかりやすく立体的な授業ができたのではないかと思う。また被服実習の応用として、学生の琉球ファッション選手権応募作品製作を指導し、学生の受賞につながったことは、学生の被服製作への興味を深めることにつながり、高く評価できると考える。		
研究	0.30	沖縄および東南アジア地域の衣生活研究をフィールド調査の手法で実施し、学会発表や学会誌で公表する。それらの研究テーマについて、宇流麻研究助成基金、琉球大学後援財団研究助成、琉球大学女性研究者支援研究助成に応募し、研究を実施する。		0.30	沖縄の染織の現状をテーマに、宇流麻財団から研究助成を受け、おきなわ各地をフィールド調査することができた。また東南アジアの染織をテーマに、琉球大学女性研究者支援研究費を受け、ラオス、インドネシア、マレーシアでフィールド調査してきた。沖縄研究は、今年9月にTextile Society of Americaで研究報告することになった。またこれまでのインドネシア研究の成果を、昨年4月に民族芸術学会で公表した。		
社会貢献	0.15	沖縄の衣生活・服飾文化に関する研究を、沖縄の生産者に還元し、持続可能な染織生産の一助となるよう研究成果を公表する。		0.10	沖縄の染織をテーマにしてきた研究報告書を現在まとめていて、来年度初めには、印刷製本し、公表する予定である。		
管理運営	0.15	教育委員会活動を積極的に行い、特に共通教育の琉大特色科目企画小委員会の活動を全学委員として責任をもって行う。		0.15	教育委員会に出席し、特に琉大特色科目企画小委員会副委員長を務めた。昨年9月には、第62回九州地区大学一般教育研究協議会の学術・キャリア・初年次教育部会の副座長を務めた。その他入試委員、入試監督を務めた。		
進路指導	0.05	学生の進路の選択について、親身になって助言を行う。特に学校教員希望学生には、被服学の教科関連での専門について助言・教示を行う。		0.05	特にゼミの3年次の学生の就職活動について時々話を聞き、状況を確認している。また2年次の被服製作に関わる仕事を希望する学生には、専門に関連する全国の大学院の特色やその後の進路について助言している。		
	0.00			0.00			
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前	小川 由美		所 属		
職 名	講師		教育実践学		
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定	業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果	
教育	0.25	(1)講義を通して、音楽科授業に関する学生の実践力向上を目指す。 その為に、レポート・模擬授業の企画実施・授業分析・その他授業に関するプレゼンテーション等の活動を段階的に 行い、学生相互に意見交流する場を設ける。 (2)「初等音楽科教育内容研究Ⅰ」の講義の一環として、附属小学校において音楽科授業を実践し、教員自身の授業 実践力向上を目指す。また附属小で実践する授業自体を、受講生との協働で創り上げていき、実践分析をすることで、 受講生の授業づくり技術の向上をも目指す。 (3)段階的な教育活動から見えてきた個々の学生の課題に応じた授業プログラムを構築し実践していく。	0.20	(1)「音楽科教育研究」(前期・後期)において、グループによる指導案作成・模擬授業の企画実施・授業分析・授業に関するプレゼン テーション等の活動を段階的に行った。1回ずつの課題を明確にし、グループ活動を中心に組み合わせた。その結果、課題に対する活発で主 体的な議論が、グループ及び全体交流の場で見られた。より教材開発に重点を置いたことで、教材への理解が深まり、小学校音楽科授 業を構成する力、及び模擬授業における実践力(発問や教材提示の方法など)において向上が見られた。 (2)「初等音楽科教育内容研究Ⅰ」の講義の一環として、附属小学校において沖縄のわらべうたを教材とした音楽科授業を教員自身が実 践し、受講生はその授業分析を通して小学校音楽科授業における授業構成の視点を省察していく活動を行った。これにより、音楽科授業 を構成する理論について実践と結び付けて考察し理解を深めている様子が見られた。 (3)「初等音楽科教育内容研究Ⅰ」の後半は、附属小中学校での教育実習に向けての教材研究を、「音楽科教育法C」では、附属小中 学校での教育実習での反省を踏まえた新たな教材開発を行った。実習の前で教材分析を中心とした音楽科授業づくりを実践的に 行うことで、学生が個々に抱えている課題に対応した授業プログラムとなった。	
研究	0.25	(1)学会発表(日本学校音楽教育実践学会第18回全国大会) (2)論文寄稿(琉球大学教育学部紀要、日本学校音楽教育実践学会編『学校音楽教育研究』) (3)日本学校音楽教育実践学会全国大会における学会活動(常任理事及び副事務局長を兼任) (4)日本学校音楽教育実践学会における実践学事典編集にワーキングメンバーとして参加。 ※「音楽科授業における地域教材の活用」について、科研費若手研究Bに応募予定。	0.20	(1)日本学校音楽教育実践学会第18回全国大会(於:お茶の水女子大学、2013年8月17-18日)にて自由研究14「身体を核としたリズム受 容から表現へ-沖縄のわらべうたを素材とした表現活動を通して-」を口頭発表 (2-1)日本学校音楽教育実践学会編『学校音楽教育研究第18巻』に「身体を核としたリズム受容から表現へ-沖縄のわらべうたを素材とし た表現活動を通して-」を寄稿(2014年3月発行予定) (2-2)琉球大学教育学部教育実践総合センター紀要20号掲載の「体系的・継続的な教育実践経験を通じた教員養成-専門科目「小学校 教育フィールドワークⅠ・Ⅱ」の意義と課題-」が査読結果を受けて大幅に加筆修正した上で、九州地区国立大学教育系・文系研究論文 集第1巻第1号(通巻第12号)(2013年10月)に掲載された。 (3)日本学校音楽教育実践学会全国大会における学会活動2013年4月より常任理事及び編集委員(2012年8月より副事務局長も担当)を 兼任し、学会全国大会運営及び紀要編集に携わった。 (4)日本学校音楽教育実践学会における実践学事典編集にワーキングメンバーとして参加。	
社会貢献	0.20	(1)関西音楽教育実践学研究会における研究発表及び教員養成系学生の育成。(月1回大阪にて開催される。) (2)音楽教育実践学研究会での研究発表:複数の教員養成大学による音楽教育分野の合同合宿を行う。合宿では各 大学の大学院生及び、大学教員、各地の現職教員(幼小中高)が参加し、研究成果を交流することを通して、音楽教 育に関わる幅広い課題について議論する場を持つ。 (3)「初等音楽科教育内容研究Ⅰ」の講義の一環として、新しい形の音楽授業の提案として附属小学校にて大学教員 が授業を行う。その授業を受講生が観察し、授業分析を行うことで、子どもの姿を通じた音楽授業の在り方を提言して いく。	0.20	(1)関西音楽教育実践学研究会における研究発表及び教員養成系学生の育成を図った。(月1回大阪にて開催される。)本研究会では、 個人研究発表とは別に、今年度の特別企画として「音楽科としての学力保障を目的とした評価規準づくり」をテーマに実践紹介及び検討 会を行っている。中学校2年生の鑑賞授業の評価規準づくりの回では、琉球大学教育学部附属中学校教員による音楽科鑑賞授業を紹介 した。 (2)音楽教育実践学研究会での研究発表(2013年8月23-25日、於:ホテル北野プラザ六甲荘)複数の教員養成大学による音楽教育分野 の合同合宿を行った。合宿では各大学の大学院生及び、大学教員、各地の現職教員(幼小中高)が参加し、研究成果を交流することを通 して、音楽教育に関わる幅広い課題について議論する場を持った。 (3)「初等音楽科教育内容研究Ⅰ」の講義の一環として、新しい形の音楽授業の提案として附属小学校にて大学教員が授業を行う。その 授業を受講生が観察し、授業分析を行うことで、子どもの姿を通じた音楽授業の在り方を提言した。その成果は、日本学校音楽教育実践 学会第18回全国大会(於:お茶の水女子大学、2013年8月17-18日)自由研究14「身体を核としたリズム受容から表現へ-沖縄のわらべ うたを素材とした表現活動を通して-」として発表した。(2013年3月発行予定の同学会紀要にも寄稿している。) (4)NPO法人うていーらみやが主催する「沖縄わらべうた研究会 守姉講座第2期 実践編」にてわらべうた講師を担当。	
管理運営	0.20	(1)学生生活委員で実施している新入生合宿研修に関して、合宿部会長として運営に携わり、合宿部会教員と学生運 営委員39名と共に、2013年4月20(土)-21日(日)沖縄県立玉城青少年の家にて「琉球大学教育学部新入生合宿研 修」(1年次191名、学生実行委員39名、教職員29名が参加)を実施する。また本年度後期に開講される「地域文化交 流実習」(次年度の学生運営委員が受講する科目)にワーキングとして携わる。 (2)教育実践総合センターの地域連携部門にて、宜野湾市との連携をはかる。主に宜野湾市内の小学校にて教育実践 学専修3年次が実習をする「小学校教育フィールドワークⅡ」の実施に向けての運営に携わる。	0.30	(1)学生生活委員で実施している新入生合宿研修に関して、合宿部会長として運営に携わり、合宿部会教員と生運営委員39名と共に、 2013年4月20(土)-21日(日)沖縄県立玉城青少年の家にて「琉球大学教育学部新入生合宿研修」(1年次191名、学生実行委員39名、 教職員29名が参加)を実施した。また本年度後期に開講される「地域文化交流実習」(次年度の学生運営委員が受講する科目)にワー キングとして携わり、学生指導にあたっている。 (2)教育実践総合センターの地域連携部門にて、宜野湾市との連携をはかる。主に宜野湾市内の小学校にて教育実践学専修3年次が実 習をする「小学校教育フィールドワークⅡ」の実施に向けての運営に携わった。「小学校教育フィールドワークⅡ」での成果報告につい ては、学生作成の報告レポート集を宜野湾市内小学校及び宜野湾市教育委員会等に配布する予定である。	
進路指導	0.10	(1)琉球大学教育学部で実施している認定試験の音楽科問題(小学校、中高共通)作成を一部担当。	0.10	(1)琉球大学教育学部で実施している認定試験の音楽科問題(小学校、中高共通)作成を一部担当。	
	0.00		0.00		
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。	

※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。

学外公表に同意しない。 学内公表に同意しない。

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		田中 敦士.	所 属		教育学部 学校教育教員養成過程	職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果		
教育	0.40	①講義では、特別支援教育の学校現場で必要となる実践的スキルも体得できるよう、現職教員が使用するマニュアルなども含めて教授する。②卒業研究12名および修士論文2名への指導では、学生の学びたいテーマを優先させ、必要に応じて実践現場の見学や学外専門家を紹介する。③毎年実施している東京学芸大学との合同研究会を今年も企画し、学生・院生が自由に参加できるようにする。④国際学会で院生や学生にも発表の機会を与え、最大限の支援を行う。			0.40	「知的障害者の指導法Ⅰ」では模擬授業も含めて実践的な内容を教授した。学生による授業評価も全項目についてほぼ満点(平均4.92)と評判がよかった。「知的障害者教育課程論」では採用試験対策も含めた結果、授業評価も全項目についてほぼ満点(平均4.93)と評判がよかった。卒業研究については新奇性のある研究が多く、半数以上の学生が論文投稿中である。うち2名はすでに国際学会誌へ受理された。		
研究	0.25	①知的障害者、発達障害者の就業支援やキャリア教育に関する研究のほか、科研費のテーマである特別支援教育に携わる教員のメンタルヘルスに関する研究(最終年度)の成果をまとめ、国内外の学会誌への論文掲載を目標とする。②韓国や台湾の研究者らとも障害者支援に関する共同研究を実施し、アジアでの展開を視野に入れた国際的研究を開始する。			0.25	知的障害者、発達障害者の就業支援やキャリア教育に関する研究のほか、科研費のテーマである特別支援教育に携わる教員のメンタルヘルスに関する研究(最終年度)の成果をまとめ、国内外の学会誌への論文掲載を行った。2013年は共著を含み7本の論文が掲載されている。国際共同研究についても組織を作り、次期科研費研究課題(基盤研究B)として5カ年計画で申請した。		
社会貢献	0.20	①沖縄障害者職業センターや障害者福祉施設などと連携し、うつ病からの復職支援に関する研究会を開催し、特別支援学校教員に対するEAPプログラム等のノウハウを提供する。②県外から訪沖する知的障害のある修学旅行生への公開講座を開催し、大学で学ぶ機会を提供する。③海外からの障害者支援施設等への使節団を数多く招き理解を深めることにより、国際的な貢献をする。④精神障害者リハビリテーション学会を誘致し、県内で最新の情報を学べる機会を提供する。			0.20	沖縄障害者職業センターや障害者福祉施設などと連携し、うつ病からの復職支援に関する研究会を開催した。県外から訪沖する知的障害のある修学旅行生ら約90名を対象に公開講座を開催した。精神障害者リハビリテーション学会沖縄大会を副大会長として誘致し、1300名超の参加者を集め、沖縄県に多大な貢献をした。沖縄県教育委員会の有識者会議に招かれ、高等学校における特別支援教育支援の配置について専門的助言を行った。沖縄県教育委員会が主催する認定講習の講師を本島、宮古、八重山の3会場で務めた。		
管理運営	0.10	①特別支援教育専修の教室主任および大学院講座主任として管理運営に努める。②全学委員会や共同研究推進委員会などの委員会活動に努める。③特別支援学校教育実習等での学生指導を担当する。④GWや休日に集中講義を開講する非常勤講師への対応を行う。⑤大学院特別支援教育専攻の入試改革に取り組む。⑥日本教育大学協会全国特別支援教育部門との窓口として調整する。			0.10	特別支援教育専修の教室主任および大学院講座主任として管理運営に努めた。全学委員会などの委員会活動に努めた。特別支援学校教育実習等での学生指導を担当した。GWや休日に集中講義を開講する非常勤講師への対応を行った。特別支援教育専攻の入試改革に取り組んだ。日本教育大学協会全国特別支援教育部門との窓口として連絡調整した。沖縄県教育委員会と緊密に連絡を取り合い、教育学部改革への要望を取りまとめた。		
進路指導	0.05	①県内の教員採用試験受験予定者には2次面接対策などを個別に設定する。②県外の教員採用試験受験予定者には、昨年度までの合格者の小論文などの各種資料を提供し助言を行うとともに、該当するOBがいれば紹介する。③海外の日本人学校受験希望者には、卒業生で海外勤務している学生からの情報を提供する。④大学院修士進学希望者に対しては、大学院の情報や研究計画への助言を丁寧に行う。			0.05	県内の教員採用試験受験予定者には2次面接対策などを個別に設定し、県内で2名の現役合格者を輩出した。海外の日本人学校受験希望者には、卒業生で海外勤務している学生からの情報を提供し、1名の合格者を輩出した。大学院修士進学希望者に対しては、大学院の情報や研究計画への助言を丁寧に行い、2名の院生を次年度から受け入れることとなった。		
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。			1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		神園 幸郎	所 属		教育学部 学校教育教員養成課程	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果		
教育	0.40	<ul style="list-style-type: none"> ○学生を支援員として教育現場に派遣して教育実践を体験させ、実践力の養成に努める。 ○発達障害児の余暇活動の促進と学習支援を目的とする「土曜教室」を拡充し、学生の臨床経験の充実と実践能力の向上を図る。 ○大学院生をティーチングアシスタントとして学部学生の授業に参加させ、教育内容や教授法の開発に係る資質を育てる。 ○卒業研究の構想発表会を公開し、FDとして実施する。 ○科研費「広汎性発達障害における少年犯罪の分析と抑止対策に関する研究」の研究で得られた成果に基づいて、卒論及び修論の指導を行う。 			0.40	<ul style="list-style-type: none"> ○学生支援員として7名の学生を教育現場に派遣し、実践力の向上に努めた。学生支援について教育現場からも大好評をいただいた。 ○発達障害児のための「土曜教室」を前年度よりも質的に充実させ、学生の実践能力を高めることができた。 ○大学院生をティーチングアシスタントとして授業参加させることで教育内容や教授法の開発に関わる資質を高めることができた。 ○科研費による研究の取り組みを通して、卒論や修論の指導に役立てることができた。 		
研究	0.40	<ul style="list-style-type: none"> ○日本特殊教育学会において研究発表を行う。 ○日本自閉症スペクトラム学会において研究発表を行う。 ○日本自閉症スペクトラム学会の理事として職責を果たす。 ○科研費の研究実績報告書を作成する。 ○発達障害児の余暇支援に関する課題について研究を進める。 ○「発達支援教育実践センター紀要」に論文を投稿する。 			0.40	<ul style="list-style-type: none"> ○日本特殊教育学会において2題の研究発表を行った。 ○ヒューマンサービス学会(国際学会)とコンテンツ学会(国際学会)において研究発表を行った。 ○日本自閉症スペクトラム学会の理事として職責を果たした。 ○発達障害児の余暇支援に関する課題について研究を進めた。 ○ヒューマンサービス学会に論文が掲載された。 		
社会貢献	0.10	<ul style="list-style-type: none"> ○浦添市デイサービス事業「たんぼぼ園」における発達相談を担当する。 ○南城市適正就学指導委員会において委員として就学判定を行う。 ○西原町適正就学指導委員会において委員として就学判定を行う。 ○西原町立小学校4校で発達障害児支援の巡回相談を行う。 ○沖縄県適性就学指導委員会の委員として就学判定を行う。 			0.10	<ul style="list-style-type: none"> ○浦添市デイサービス事業「たんぼぼ園」における発達相談を担当した。 ○南城市適正就学指導委員会において委員として就学判定を行った。 ○西原町適正就学指導委員会において委員として就学判定を行った。 ○西原町立小学校4校で発達障害児支援の巡回相談を行った。 ○沖縄県適性就学指導委員会の委員として就学判定を行った。 		
管理運営	0.05	<ul style="list-style-type: none"> ○教育実習委員として職責を果たす。 ○学生生活委員として職責を果たす。 ○「土曜教室」の実施に伴う施設管理、参加児童の安全管理に努める。 ○特別支援教育学生支援員を募集し県教育委員会へ学生を斡旋する。 			0.05	<ul style="list-style-type: none"> ○教育実習委員として職責を果たした。 ○学生生活委員として職責を果たした。 ○「土曜教室」の実施に伴う施設管理、参加児童の安全管理に努めた。 ○特別支援教育学生支援員を募集し県教育委員会へ学生を斡旋した。 		
進路指導	0.05	<ul style="list-style-type: none"> ○3年次指導教員として学生の進路相談と就職情報の提供等に努める。 ○卒論を担当する3名の学生の進路相談や就職情報の提供に努める。 ○修了論文の指導を担当する特別支援教育特別専攻科生6名の進路相談および就職情報の提供等に努める。 			0.05	<ul style="list-style-type: none"> ○3年次及び特専の指導教員として進路相談と就職情報の提供等に努めた。 ○卒論を担当する3名の学生の進路相談や就職情報の提供に努めた。 ○修了論文の指導を担当する特別支援教育特別専攻科生2名の進路相談および就職情報の提供等に努めた。 		
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 			1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 		

※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。

学外公表に同意しない。

学内公表に同意しない。

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		緒方 茂樹	所 属	教育学部 特別支援教育専修	職 名	教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果	
教育	0.30	1) 修士2年次1名に対する修論指導。2) 学部3-4年生および特別専攻科合計14名に対する卒論指導。必要に応じて学校現場あるいは教育行政機関などに引率をしながら経験を積ませ、実践的な内容を論文に盛り込めるよう指導する。		0.30	達成できた	
研究	0.30	1) 宮古圏域における特別支援教育ネットワーク構築に関する研究。2) 子どもの発達と音楽活動の関わりに関する評価ツールの作成に関わる研究。3) 藤森法を応用した脳波分析に関する研究。以上3つを柱として研究を進めていく。特に1) 宮古圏域に関わる研究内容については、引き続き科研費の補助を得て遂行予定である。		0.30	十分に達成できた	
社会 貢献	0.10	1) 沖縄県発達障害者支援体制整備委員会、大宜味村及び宮古島市就学指導委員会等、沖縄県あるいは宮古圏域における教育・福祉行政事業への積極的参加。2) 沖縄県教育委員会、沖縄県総合教育センター、あるいは学校単位の校内研修会等講師を引き受け、県内の特別支援教育の推進に貢献する。		0.10	達成できた	
管理 運営	0.25	1) 総合実践センター地域連携部門協力教員・入試委員としての職務遂行 2) 1年次担任として履修指導をはじめとする学生指導		0.25	達成できた	
進路 指導	0.05	過卒生、現役学生併せて、教員採用試験に向けた進路指導等の機会を設ける。		0.05	おおむね達成できた	
	0.00			0.00		
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		韓 昌完	所 属		教育学部 学校教育教員養成過程
			職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果
教育	0.25	①病弱の心理・生理・病理および障害者発達支援総論は適切なテキストが市販されていないため、テキストを作成し独自の学習資料を提供する。②特に医療との連携を想定しながら医学的知識も習得させるため、医学の基礎的な部分も教授する。③修士課程の指導において、学術雑誌および紀要に研究論文を投稿掲載する指導を行う。④卒業論文の指導では、紀要に論文投稿できるように指導を行う。		0.25	①病弱の心理・生理・病理および障害者発達支援総論はテキストを作成し独自の学習資料を提供することができた。②医学的知識も習得させるため、インターネット、医学事典、人体図等を活用し、身体の構造と機能についての授業を行った。③修士課程の指導において、国際学術雑誌に3本、紀要に2本の研究論文を掲載させた。④卒業論文の指導では、紀要に1本、論文投稿できた。⑤韓国釜山で行われたアジアヒューマンサービス学会に大学院生2名、学部生3名を引率参加し、論文3本の発表を行った。
研究	0.40	①国際ジャーナルに論文2本以上掲載。 ②国内ジャーナル(紀要を含む)に論文2本以上掲載。 ③外部資金(科学研究費補助金等)の獲得にChallengeする。		0.40	①国際ジャーナルに論文4本掲載した。 ②国内ジャーナル(紀要を含む)に論文4本掲載した。 ③外部資金(科学研究費補助金等)に応募した。 ④国際学会に3本、国内学会1本研究発表を行った。
社会貢献	0.25	①ヒューマンサービス分野における海外からの教育研修を積極的に受け入れ、講演を開催する。 ②国外から国際学会の研究大会を誘致する。 ③国外、県外から専門家、院生を招き勉強会を開催する。		0.25	①三重県で行われた法人会の新春講演会に講師として講演を行った(QOLに関連する内容)。また、ヒューマンサービス分野の研修会を2回行った。 ②国際学会であるICCC2013(International Conference on Convergence Content)の Organization Committee Program Co-chairsとして研究大会を誘致した(国外から350人参加)。誘致資金約70万円獲得。 ③日韓社会サービス政策セミナーを1回、アジアヒューマンサービス研修会を2回行った。 ④韓国コンテンツ学会の学術理事、韓国社会サービス学会国際理事、韓国社会福祉政策学会の国際担当理事を務めた(国際貢献)。 ⑤国際誌・国内誌の論文査読を計4件行った。
管理運営	0.05	①教育委員会の委員会活動を担当する。 ②発達支援教育実践センター運営委員会の委員会活動を担当する。 ③全学国際交流委員会の活動を担当する。		0.05	①教育委員会の委員会活動を担当した。 ②発達支援教育実践センター運営委員会の委員会活動を担当した。 ③全学国際交流委員として活動した。 ④学生交流専門委員として、奨学生の審査、海外学生派遣の審査、面接等の活動を行った。 ⑤附属小学校の入試アドバイザーとして活動した。 ⑥2013年度教育学部の国際交流ワーキング・グループを担当した。
進路指導	0.05	①修士課程の指導学生を博士課程に進学させる。 ②教員採用試験の試験対策としての勉強会を開催する(月1回程度)。		0.05	①修士課程の指導学生を博士課程に進学させることができたことに加え、 日本学術振興会の特別研究員DC-1に採用された。 ②教員採用試験の試験対策として月1回勉強会を開催した。
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	